

建機用フィルタ需要は好調持続 利益改善の取り組み強化

ヤマシンフィルタ株式会社

2022年3月期

決算説明資料

2022年5月20日

事業環境

建機用フィルタ事業

市場

日本

北米

欧州

アジア

中国

建機の稼働時間と新車需要は高い水準

低調

物流コスト・原材料価格

為替

高騰

円安が進行

エアフィルタ事業

⇒オフィスビル等の交換需要は回復傾向

アフターコロナ、気候変動といった環境課題のもと

当社のビジネス拡大機会が到来

2022年3月期の取り組み

建機用フィルタ事業

◆ 新素材やIoT技術を活かした

高付加価値フィルタ製品ラインナップの拡充進展

◆ 北米・中国市場のシェア拡大

北米向け新規採用提案、中国系建機メーカーへの採用実績進展

◆ バリューチェーンの強化・サプライチェーンの再編

ベトナム工場量産開始、北米工場新設による現地調達化、
物流コスト低減図る

エアフィルタ事業

◆ ナノファイバー製エアフィルタ供給・シェア拡大進展

その他事業ポートフォリオ

◆ 産業資材としての市場領域拡大、事業ポートフォリオ確立



2022年3月期

業績動向

連結売上高： **188億21百万円**

前期比： **29.0%増収**

連結営業利益： **13億44百万円**

前期 1億45百万円の営業損失

建機用フィルタ	前期比42.1%増収 155億92百万円	市場環境変化により大幅増収増益、物流コストや原材料価格が減益要因
エアフィルタ	前期比1.2%減収 25億77百万円	オフィスビル等の稼働率低下の影響による需要減少に伴い減益
ヘルスケア	前期比35.4%減収 6億51百万円	家庭用マスク市場における市場環境の変化に伴う需要大幅減少により営業損失

2023年3月期における事業環境・当社取り組みについて

営業力のさらなる強化

- 建機用フィルタ事業：

- 堅調な事業環境を活かし事業を推進

- ◆ 新素材やIoT技術を活かした高付加価値フィルタ製品ラインナップの拡充
- ◆ 2022年4月から開始されたYAMASHIN Nano Filter®素材のフィルタ販売を推進
- ◆ 建機フィルタ技術の他分野への応用

- エアフィルタ事業：

- 新製品の優位性を活かした新規シェア獲得

- SDGsへの取り組みと

- 事業ポートフォリオ拡大を両立

YAMASHIN Nano Filter®の産業資材としての市場領域の拡大

利益改善の取り組み

- 建機用フィルタ事業：

- バリューチェーンの再編・強化

- ◆ YVC（ベトナム工場）の稼働によるサプライチェーン見直し・物流コスト低減を実施
- ◆ 材料価格の高騰への対策として、主要原材料の調達安定化&価格転嫁の更なる取り組み

- 為替変動への対応策

- ◆ 為替マリーの強化と積極的なデリバティブ取引の活用による業績影響の軽減を図る

- エアフィルタ事業：

- 生産性向上による収益改善を図る

I

2022年3月期第4四半期実績及び2023年3月期通期見通し

P4

II

市場を取り巻く環境

P30

III

今後の戦略

P46

決算

I 2022年3月期第4四半期実績及び 2023年3月期通期見通し

2022年3月期 第4四半期業績 (2022年1月~3月)

		2021/3期	2022/3期	前年同期比	
		Q4 実績	Q4 実績	増減額 (百万円)	増減率
		金額 (百万円)	金額 (百万円)		
売上高		4,192	4,633	440	10.5%
	建機用フィルタ※1	3,227	3,824	596	18.5%
	エアフィルタ	649	683	33	5.1%
	ヘルスケア	315	125	△189	△60.1%
営業利益 (セグメント利益)		0	230	230	—
	建機用フィルタ※1	491	603	112	22.8%
	エアフィルタ	5	21	15	273.9%
	ヘルスケア	△131	13	144	—
	全社費用※2	△364	△407	△42	—
営業利益率		0.0%	5.0%	5.0Pt	
経常利益		△1	238	240	—
経常利益率		△0.0%	5.1%	5.2Pt	
四半期純利益		366	135	△230	△63.0%
四半期純利益率		8.7%	2.9%	△5.8Pt	
為替レート (円) (期中平均値)	USD	106.1	112.4	6.3	6.0%
	EUR	123.7	130.6	6.9	5.6%

※1 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

※2 各セグメントの業績をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等は全社費用として別掲しています。

	2021/3期	2022/3期	前年同期比	
	Q4 実績	Q4 実績	増減額 (百万円)	増減率
	金額 (百万円)	金額 (百万円)		
建機用フィルタ	2,872	3,509	636	22.2%
ライン品	1,302	1,465	163	12.5%
補給品	1,570	2,043	473	30.1%
産業用フィルタ	126	108	△18	△14.5%
プロセス用フィルタ	228	206	△21	△9.4%
建機用フィルタ 合計	3,227	3,824	596	18.5%
エアフィルタ	649	683	33	5.1%
ヘルスケア	315	125	△189	△60.1%
売上高合計	4,192	4,633	440	10.5%

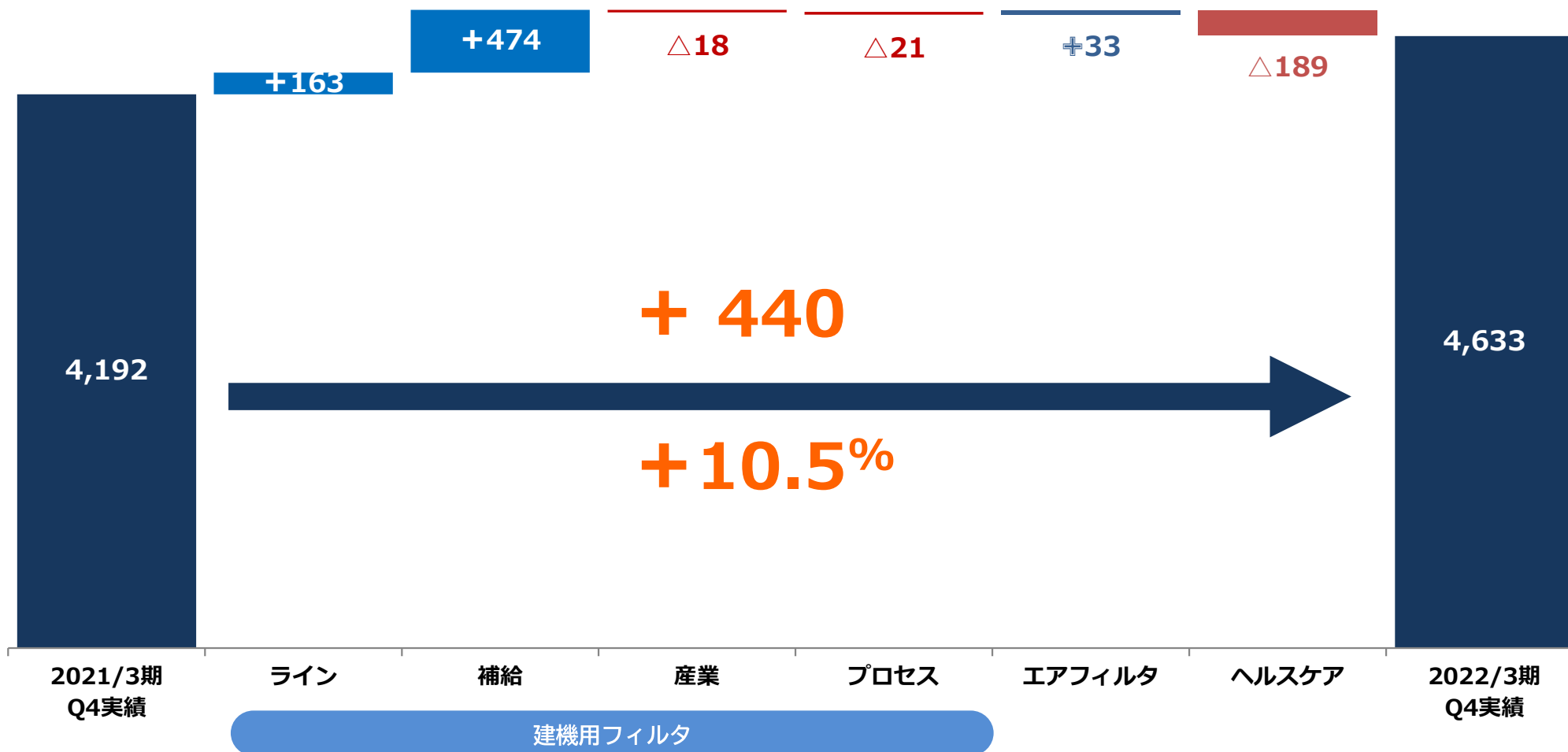
	2021/3期 Q4 実績		2022/3期 Q4 実績		前年同期比	
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※	3,227	77.0%	3,824	82.5%	596	18.5%
国内	1,515	36.2%	1,747	37.7%	231	15.3%
北米	552	13.2%	692	14.9%	140	25.4%
中国	421	10.0%	392	8.5%	△28	△6.8%
アジア	358	8.6%	595	12.9%	236	65.9%
欧州	378	9.0%	395	8.5%	17	4.5%
その他（中東他）	1	0.0%	0	0.0%	0	△3.2%
エアフィルタ（国内）	649	15.5%	683	14.7%	33	5.1%
ヘルスケア（国内）	315	7.5%	125	2.7%	△189	△60.1%
売上高合計	4,192	100.0%	4,633	100.0%	440	10.5%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

* 当社は請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます。

売上高の増減要因（2022/1-3）

(単位：百万円)



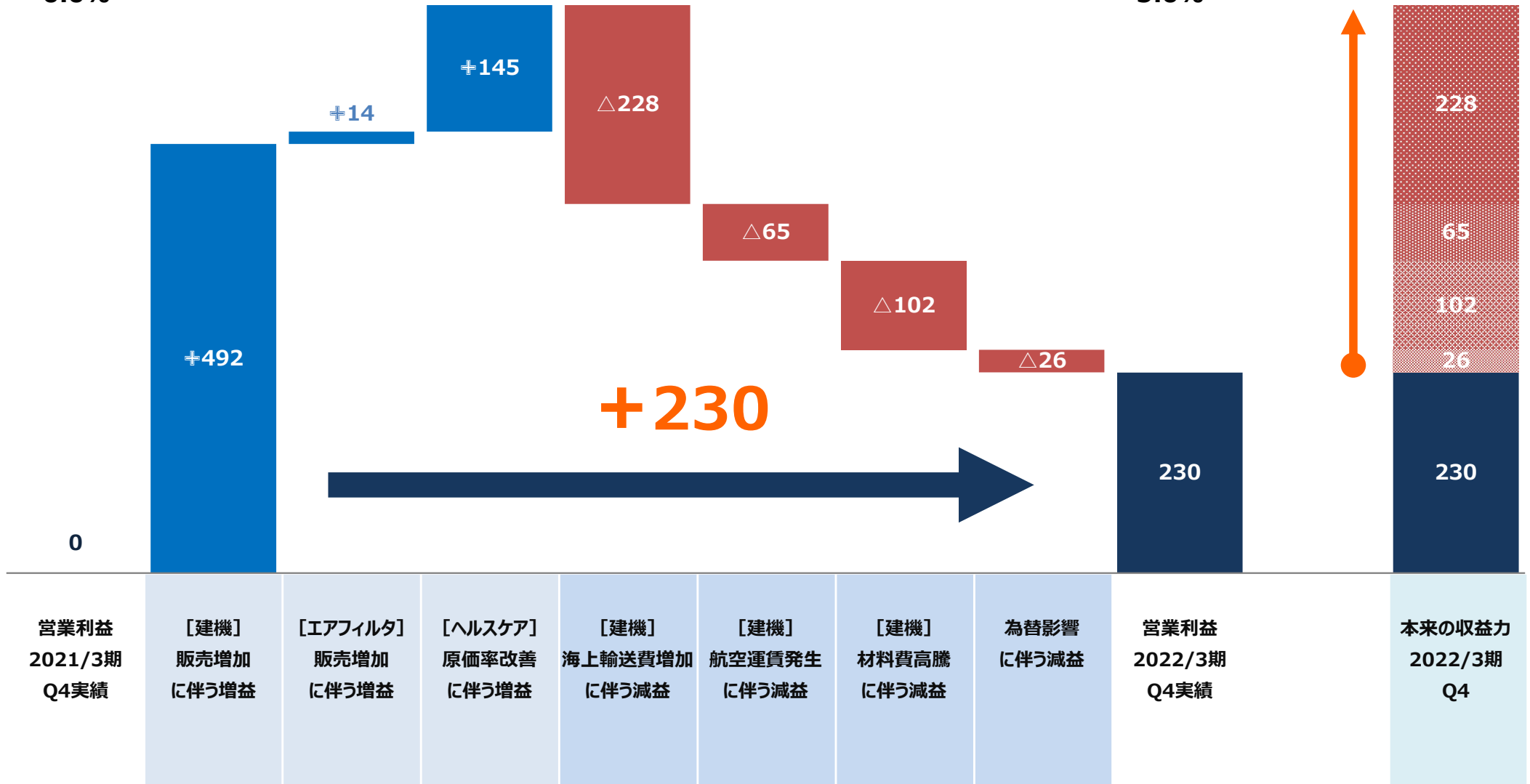
営業利益の増減要因 (2022/1-3)

(単位：百万円)

営業利益率
0.0%

営業利益率
5.0%

営業利益率
14.1%



2022年3月期 累計業績 (2021年4月~2022年3月)

		2021/3期 実績	2022/3期 実績	前期比	
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率
売上高		14,587	18,821	4,234	29.0%
	建機用フィルタ※1	10,970	15,592	4,622	42.1%
	エアフィルタ	2,607	2,577	△30	△1.2%
	ヘルスケア	1,009	651	△357	△35.4%
営業利益 (セグメント利益)		△145	1,344	1,490	—
	建機用フィルタ※1	1,289	3,115	1,825	141.6%
	エアフィルタ	123	70	△53	△43.0%
	ヘルスケア	△150	△329	△179	—
	全社費用※2	△1,408	△1,512	△103	—
営業利益率		△1.0%	7.1%	8.1Pt	
経常利益		△135	1,317	1,452	—
経常利益率		△0.9%	7.0%	7.9Pt	
当期純利益		750	47	△703	△93.7%
当期純利益率		5.1%	0.3%	△4.9Pt	
為替レート (円) (期中平均値)	USD	106.1	112.4	6.3	6.0%
	EUR	123.7	130.6	6.9	5.6%

※1 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

※2 各セグメントの業績をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等は全社費用として別掲しています。

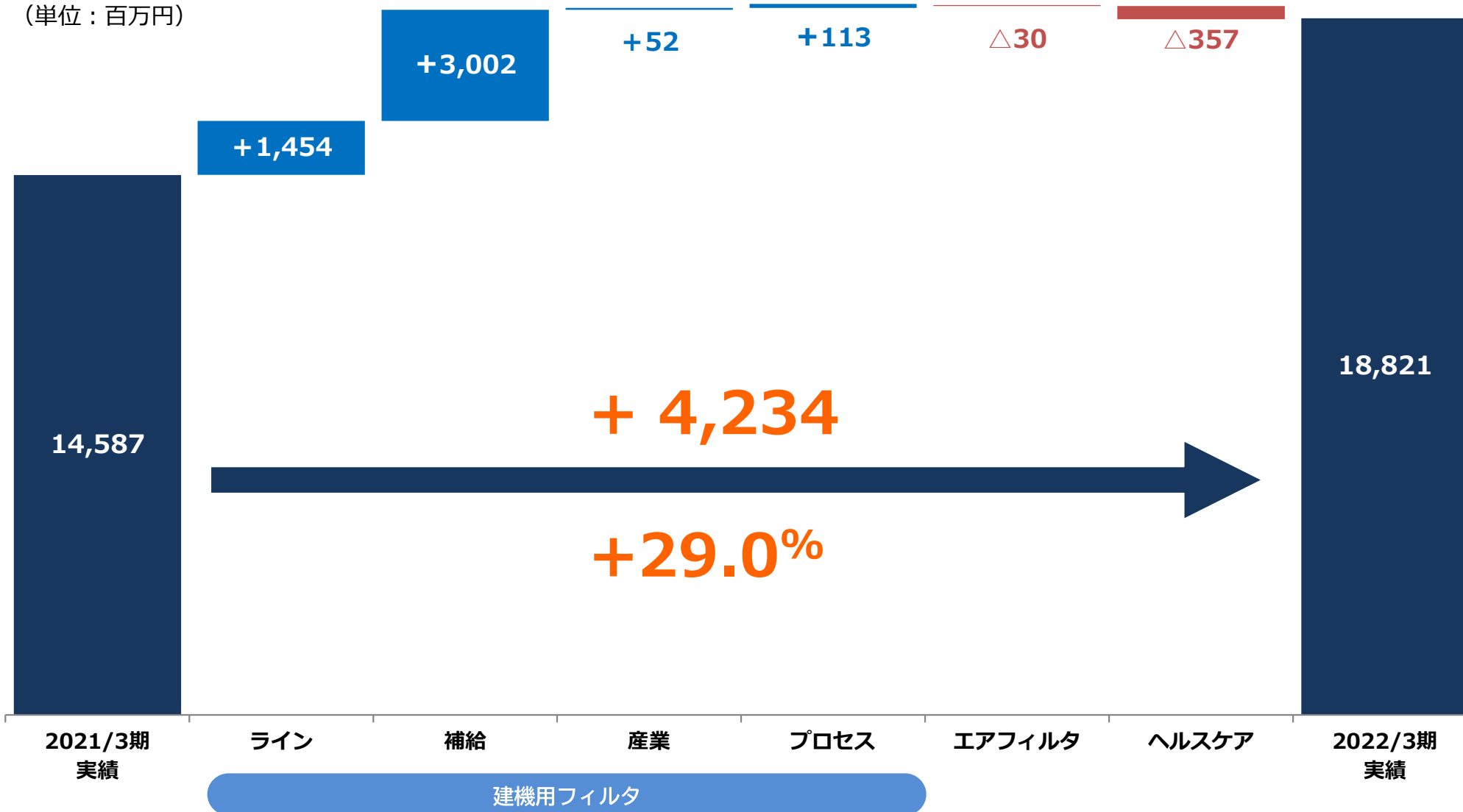
	2021/3期 実績	2022/3期 実績	前期比	
	金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ	9,713	14,169	4,456	45.9%
ライン品	4,178	5,633	1,454	34.8%
補給品	5,534	8,536	3,002	54.2%
産業用フィルタ	470	522	52	11.2%
プロセス用フィルタ	786	900	113	14.5%
建機用フィルタ 合計	10,970	15,592	4,622	42.1%
エアフィルタ	2,607	2,577	△30	△1.2%
ヘルスケア	1,009	651	△357	△35.4%
売上高合計	14,587	18,821	4,234	29.0%

	2021/3期 実績		2022/3期 実績		前期比	
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	増減額（百万円）	増減率
建機用フィルタ※	10,970	75.2%	15,592	82.8%	4,622	42.1%
国内	5,019	34.4%	7,294	38.8%	2,275	45.3%
北米	1,915	13.1%	2,939	15.6%	1,023	53.4%
中国	1,552	10.6%	1,711	9.1%	158	10.2%
アジア	1,235	8.5%	1,889	10.0%	653	52.9%
欧州	1,243	8.5%	1,755	9.3%	511	41.2%
その他（中東他）	3	0.0%	2	0.0%	0	△22.8%
エアフィルタ（国内）	2,607	17.9%	2,577	13.7%	△30	△1.2%
ヘルスケア（国内）	1,009	6.9%	651	3.5%	△357	△35.4%
売上高合計	14,587	100.0%	18,821	100.0%	4,234	29.0%

※ 「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

* 当社は請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます。

(単位：百万円)



営業利益の増減要因 (2021/4-2022/3)

(単位：百万円)

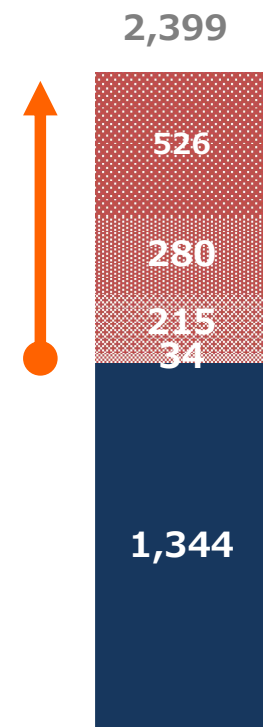
営業利益率
△1.0%



営業利益率
7.1%



営業利益率
12.7%



+1,490

△145

営業利益
2021/3期
実績

[建機]
販売増加
に伴う増益

[エアフィルタ]
販売減少・
固定経費増加
に伴う減益

[ヘルスケア]
販売減少
に伴う減益

[建機]
海上輸送費増加
に伴う減益

[建機]
航空運賃発生
に伴う減益

[建機]
材料費高騰
に伴う減益

為替の影響
に伴う減益

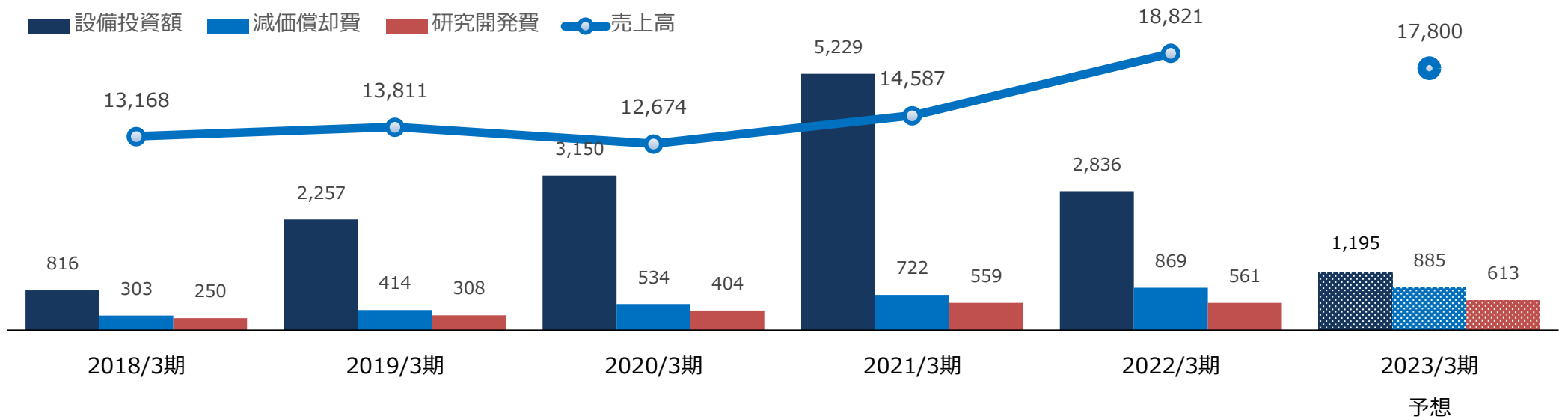
営業利益
2022/3期
実績

本来の収益力
2022/3期

設備投資額、減価償却費及び研究開発費推移

単位 百万円	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想
売上高	13,168	13,811	12,674	14,587	18,821	17,800
設備投資額	816	2,257	3,150	5,229	2,836	1,195
土地・建物	-	1,588	2,682	3,194	1,488	124
その他設備投資	816	669	468	2,036	1,347	1,070
売上高比率	6.2%	16.3%	24.9%	35.9%	15.1%	6.5%
減価償却費	303	414	534	722	869	885
売上高比率	2.3%	3.0%	4.2%	5.0%	4.6%	4.8%
研究開発費	250	308	404	559	561	613
売上高比率	1.9%	2.2%	3.2%	3.8%	3.0%	3.4%

売上高及び設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移



～2021年3月期

2022年3月期～

生産技術・管理・システムの総合的な改善を実施し、利益体制の強化を図る

PAC21



Promptly
迅速



Activated
かつ効果的な



Cost reduction
コスト削減計画

20



■削減目標金額（期初目標から修正）

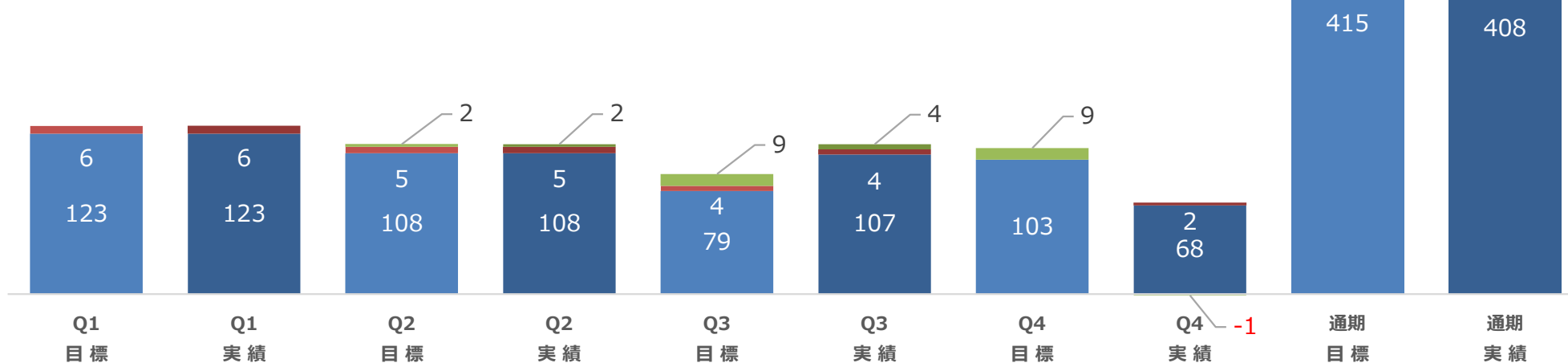
単位：百万円

		通 期 目 標	通 期 実 績
PAC21	製造原価	415	408
	販管費	16	19
	計	431	428
PAC21+		21	4
総合計		453	433

通期進捗率
95.5%

■進捗状況

■ 製造原価 ■ 販管費 ■ PAC21+ (単位：百万円)



管理部門にとどまらず、現場にまで
企業価値向上の目標数値を落とし込む

MAVY'Sとは (ROIC - WACC)

Maximizing
Added
Value of
Yamashin Filter
Spread

投下資本の利潤最大化を目指し、
各責任部署が (KPI) を設定し
業務に取り組む (KSF) ための
最重要指標 (KGI)

MAVY's
スプレッド拡大により
ステークホルダーの期待に応える

各指標に対して、担当部署を
割り振り、各KPIを設定して
目標達成に向けた業務運営を
全社にて行う

MAVY'sの全体像と責任部署 (2022/3期)

Key Goal Indicator (KGI)	Key Performance Indicator (KPI)	Key Success Factor (CFS)	責任部署	2022/3期部門目標 (action plan)	2022/3期進捗																																																			
MAVY's Prv: -11.3% Cur: -0.6%	売上高営業利益率 Prv: -1.0% Cur: 7.1%	ROIC Prv: -1.4% Cur: 4.7%	売上総利益率 Prv: 39.8% Cur: 40.4%	売上高伸長率 Prv: 5.6% Cur: 29.0%	新製品開発 純正率向上	営業・開発	・中国企業への参入拡大・加速 ・エアフィルタラインナップによる製品・提案力強化 ・マスク関連製品市場への進出 ・新規事業領域への進出	・中国系建機メーカー向け新機種採用実績向上 ・ハイアッドフィルタの各社提案進展 ・マスク関連製品の販売開始量産供給量拡大 ・アパレル業界向け供給継続進展 (脱ダウン)																																																
									WACC Prv: 9.9% Cur: 5.3%	売上原価率 Prv: 60.2% Cur: 59.6%	購買力強化 歩留り改善	生産・SCM	・PAC21 ・購買力強化 ・生産管理の改善	・購買先の評価基準の見直しと集約実施完了 ・共通購買(アクション)による調達コスト削減 ・計画的な保守・保全実施による歩留まり改善、 製造原価削減実行進展																																										
															ROE Prv: 3.9% Cur: 0.2%	減価償却費率 Prv: 5.0% Cur: 4.6%	投資計画	経営企画 財務経理	・M&A(収益拡大・経営安定化手段) →M&A先企業の情報収集 →不織布事業体買収(下流) →新素材開発企業買収(上流)	・国内外のM&Aデータの収集並びに潜在可能性ある M&A先とのコミュニケーションの強化(電話会議等)																																				
																					ROA Prv: 3.0% Cur: 0.2%	販管費率 Prv: 40.8% Cur: 33.3%	研究開発費率 Prv: 3.8% Cur: 3.0%	テーマの絞り込み 優先順位	開発	・新素材の開発 ・IoTの取り組み ・エアレーション他技術開発 ・マスク次期モデル開発	・ナノファイバー製エアフィルタ製品化加速 ・各得意先各種センサー試験品供給 ・産学連携による新素材開発の加速 ・高性能マスク、布マスク開発																													
																												投下資本回転率 Prv: 0.6 Cur: 0.9	人件費率 Prv: 16.1% Cur: 13.7%	最適な人員構成	人事・総務	・タレントマネジメント制度策定・運用	・次世代マネジメント層の発掘 ・製品開発に向けた研究要員の増員 ・事業再編にかかる職業専門家スタッフの採用																							
																																		運転資本回転率 Prv: 3.1 Cur: 3.1	売上債権回転率 Prv: 3.8 Cur: 4.2	債権管理	営業 財務経理	・債権回収率の改善	・運転資金改善に向けた債権回収の効率化・ 合理化対応																	
																																								固定資産回転率 Prv: 1.4 Cur: 1.5	棚卸資産回転率 Prv: 6.0 Cur: 4.8	適正在庫の設定	生産 営業	・全社棚卸資産の圧縮	・棚卸資産のバレット分析に基づき適正在庫量の決定 ならびに削減計画の実行中											
																																														有形固定資産回転率 Prv: 1.7 Cur: 1.7	仕入債務回転率 Prv: 5.6 Cur: 4.8	債務管理	SCM 生産	・ワーキングキャピタル改善	・運転資金の改善に向けた債務支払い回転率の 適正化					
																																																				無形固定資産回転率 Prv: 41.8 Cur: 66.4	設備計画 (R&D・生産)	経営企画 総務・生産・開発	・投資回収効果最適化	・投資回収取期間の妥当性分析による開発及び R&D投資、優先判断の実行

2023年3月期 通期業績予想

建機用フィルタ事業

- 中国市場の低迷により新車の販売台数は前年度を下回る一方、日本、北米、欧州、アジア市場における建設機械市場の需要は、引き続き堅調に推移する見通し
- 物流コストや資材価格の高騰については依然として先行き不透明な状況が継続
- サプライチェーンの見直しや生産地移管による安定した生産供給体制の構築及び為替や原材料調達の安定化を図り、収益性の改善に努める

エアフィルタ事業

- 既存製品の交換需要の回復及び、ナノファイバー製エアフィルタをはじめとした高付加価値製品の展開により、オフィスビルや工場、鉄道車両等への採用に向けた取り組み進展
- 基幹システムの導入により原価管理体制の強化を図る

ヘルスケア事業：

家庭用マスク市場において、販売量の減少が見込まれる中でも営業利益の確保が図れる体制を構築

連結上の収益に与える影響額は極めて軽微であることから、
2023年3月期は建機用フィルタ事業の製品群に含めて開示

		2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 予想	前期比
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)
売上高		14,587	18,821	17,800	△1,021
	建機用フィルタ※	10,970	15,592	15,000	△592
	エアフィルタ	2,607	2,577	2,800	222
	ヘルスケア※	1,009	651	-	△651
営業利益		△145	1,344	700	△644
	建機用フィルタ※	22	1,797	660	△1,137
	エアフィルタ	△18	△123	40	163
	ヘルスケア※	△150	△329	-	329
営業利益率		△1.0%	7.1%	3.9%	△3.2Pt
経常利益		△135	1,317	650	△667
経常利益率		△0.9%	7.0%	3.7%	△3.3Pt
当期純利益		750	47	458	410
当期純利益率		5.1%	0.3%	2.6%	2.3Pt
為替レート (円)	USD	106.1	112.4	122.0	8.6%
	EUR	123.7	130.6	137.0	4.9%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

※ヘルスケア事業については、当社の業績に与える影響度合いを考慮し、2023/3期から建機用フィルタ事業の製品群に含めて開示しています。

※2021/3期及び2022/3期の営業利益については、全社費用として別掲していた本社及び子会社の管理部門の一般管理費等の費用について、各セグメントの営業利益に含めています。

	2021/3期 実績		2022/3期 実績		2023/3期 予想		前期比	
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ※	9,713	66.6%	14,169	75.3%	13,273	74.6%	△896	△6.3%
ライン品	4,178	28.6%	5,633	29.9%	5,733	32.2%	100	1.8%
補給品	5,534	37.9%	8,536	45.4%	7,539	42.4%	△996	△11.7%
産業用フィルタ	470	3.2%	522	2.8%	653	3.7%	130	25.0%
プロセス用フィルタ	786	5.4%	900	4.8%	1,072	6.0%	172	19.1%
建機用フィルタ 合計	10,970	75.2%	15,592	82.8%	15,000	84.3%	△592	△3.8%
エアフィルタ	2,607	17.9%	2,577	13.7%	2,800	15.7%	222	8.6%
ヘルスケア※	1,009	6.9%	651	3.5%	—	—	△651	△100.0%
売上高合計	14,587	100.0%	18,821	100.0%	17,800	100.0%	△1,021	△5.4%

※ ヘルスケア事業については、当社の業績に与える影響度合いを考慮し、2023/3期から建機用フィルタ事業の製品群に含めて開示しています。

	2021/3期 実績		2022/3期 実績		2023/3期 予想		前期比	
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	増減額 (百万円)	増減率
建機用フィルタ*	10,970	75.2%	15,592	82.8%	15,000	84.3%	△592	△3.8%
国内	5,019	34.4%	7,294	38.8%	7,079	39.8%	△215	△3.0%
北米	1,915	13.1%	2,939	15.6%	3,135	17.6%	196	6.7%
中国	1,552	10.6%	1,711	9.1%	1,507	8.5%	△204	△11.9%
アジア	1,235	8.5%	1,889	10.0%	1,902	10.7%	12	0.6%
欧州	1,243	8.5%	1,755	9.3%	1,371	7.7%	△384	△21.9%
その他（中東他）	3	0.0%	2	0.0%	5	0.0%	2	122.3%
エアフィルタ（国内）*	2,607	17.9%	2,577	13.7%	2,800	15.2%	222	8.6%
ヘルスケア（国内）	1,009	6.9%	651	3.5%	—	—	△651	△100.0%
売上高合計	14,587	100.0%	18,821	100.0%	17,800	100.0%	△1,021	△5.4%

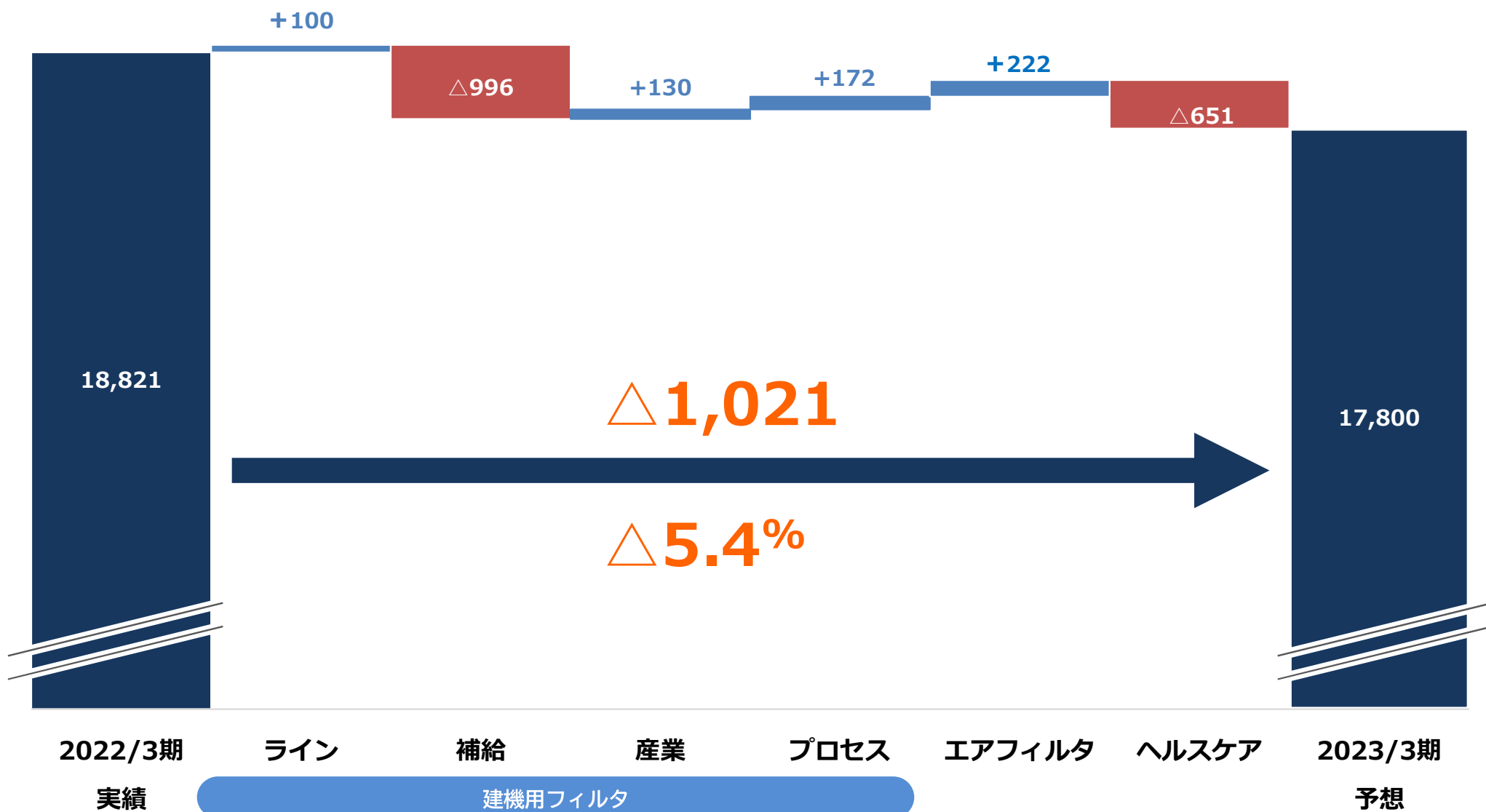
※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

※ヘルスケア事業については、当社の業績に与える影響度合いを考慮し、2023/3期から建機用フィルタ事業の製品群に含めて開示しています。

* 当社は請求書送付先基準のため、実際の地域別市場動向と差異が出ます。

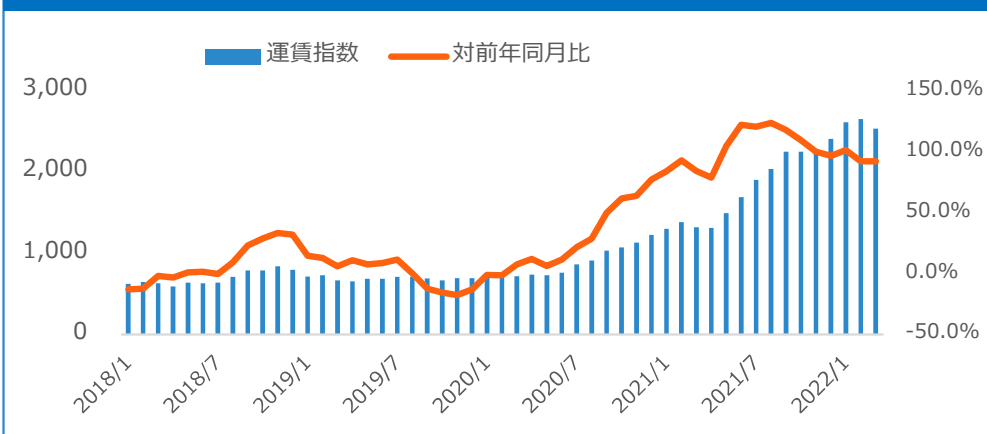
売上高の増減要因 (2023.3期見通し)

(単位 : 百万円)



営業利益の増減要因 (2023.3期見通し)

ご参考：北米往航西岸(CCFI W/C AMERICA)・月別運賃指数の推移



日本海事センター
企画研究部作成資料より引用

2022/3期に増加した
海上輸送費 526百万
材料費高騰 215百万

(単位：百万円)

営業利益率
7.1%



+47

+163

△371

△219

△264

△644

営業利益率
3.9%

700

営業利益率
12.9%

2,295

526

215

371

219

264

700

2022/3期
実績

[建機]
販管費減少
に伴う増益

[エアフィルタ]
販売増加
に伴う増益

[建機]
海上輸送費増加
に伴う減益

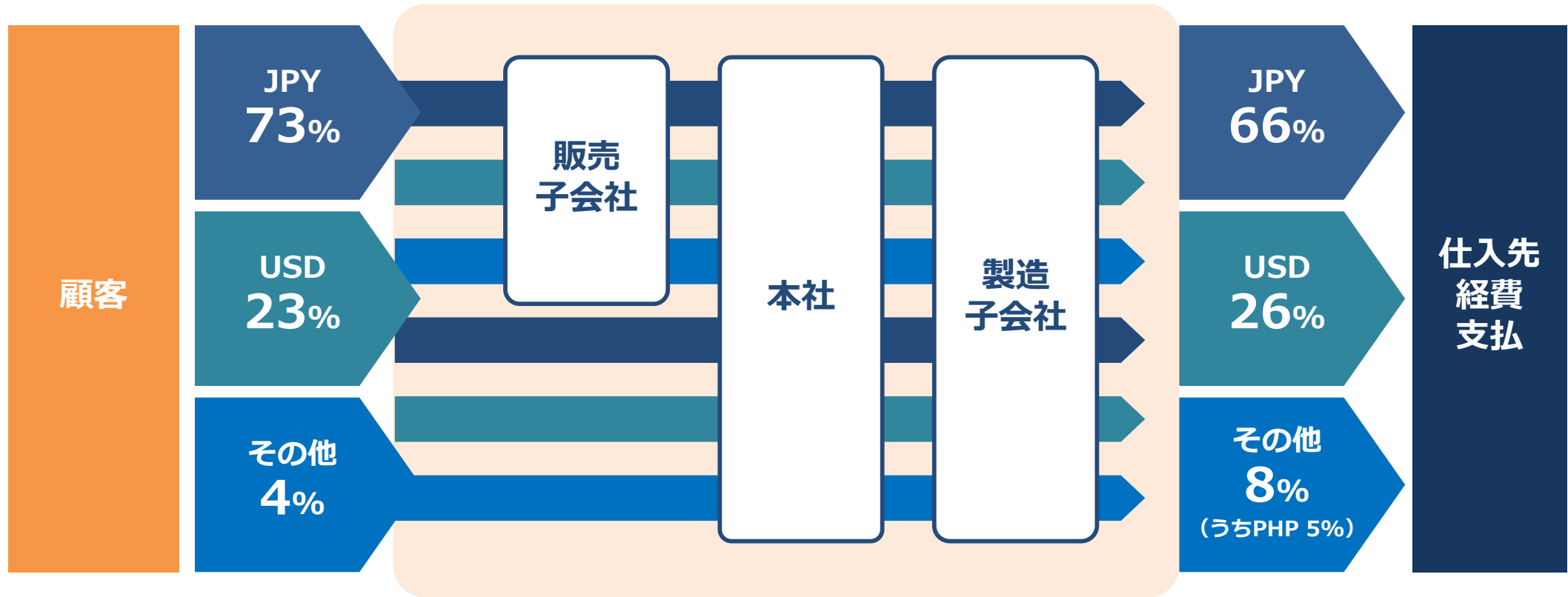
[建機]
航空運賃発生
に伴う減益

[建機]
材料費高騰
に伴う減益

2023/3期
予想

本来の収益力
2023/3期
予想

為替マリーを実施。



取引通貨の7割はJPY

USDは為替マリーを実現

- 為替が1円円安になった場合の営業利益影響額は約13百万円減益

中間配当3.0円、期末配当3.0円の年間6.0円

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期 予想
1株当たり 年間配当金	6.0円	6.0円	6.0円	6.0円
DOE^{※1}	2.3%	2.2%	2.1%	2.1%
総還元性向^{※2}	72.3%	59.3%	960.4%	97.7%

※1 DOE（株主資本配当率） = (年間配当総額 ÷ 株主資本) × 100 = (ROE × 配当性向)

※2 総還元性向 = {(配当金総額 + 株主優待 + 自己株式取得) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益} × 100

環境

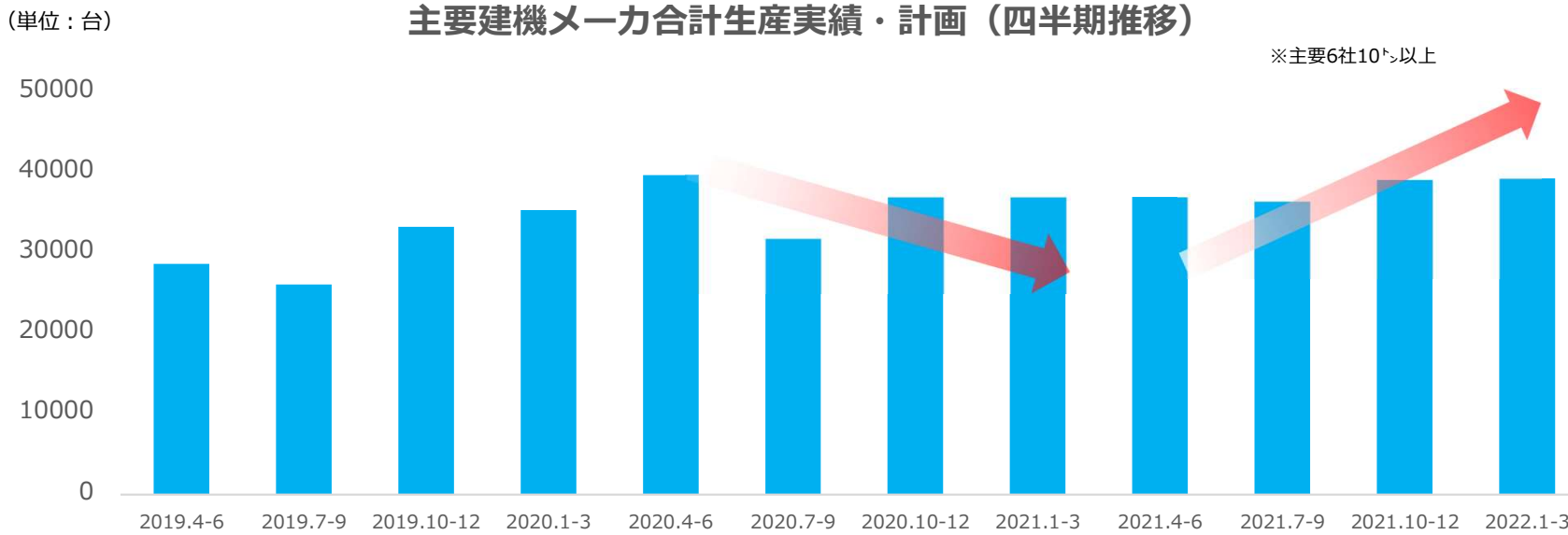
Ⅱ 市場を取り巻く環境

“建機市場を取り巻く環境”

- 北米・東南アジア市場をはじめ、高水準の稼働時間で新車需要は堅調
- 上海ロックダウン・ロシア-ウクライナ情勢により、中国市場・欧州市場は不透明
- 依然として半導体等の部品供給に課題があるが、市場は堅調

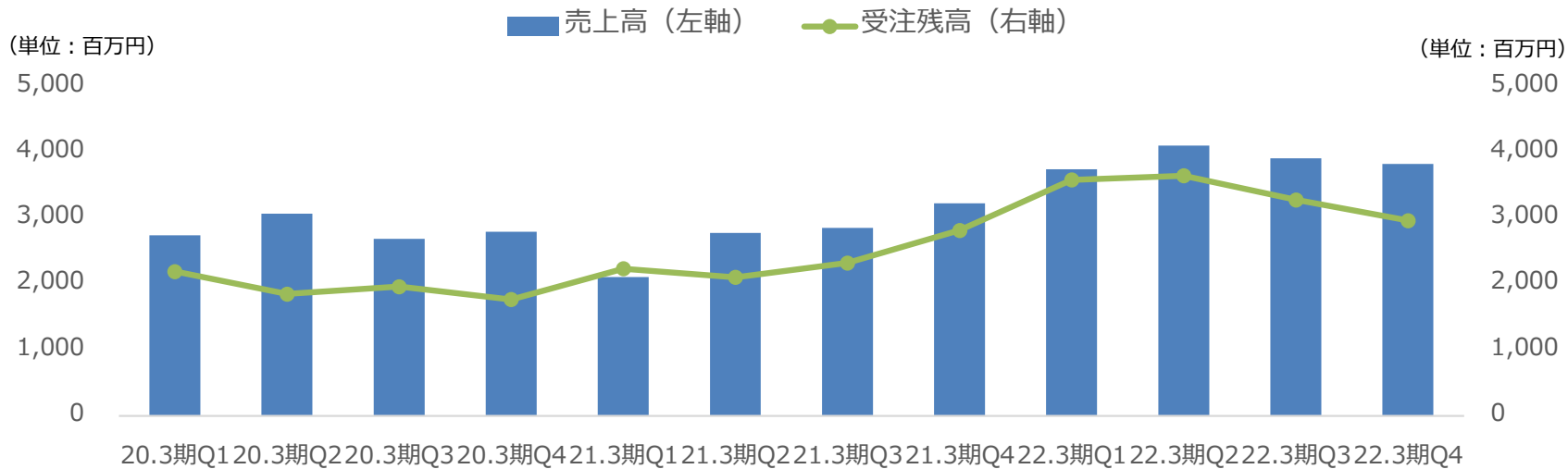
	2021/3 Q4	2022/3 Q4	今後の見通し
日本	COVID-19感染拡大の影響が少なかった公共工事を中心に建機の需要は堅調に推移	建機の稼働時間と新車需要は高い水準で推移 海上輸送費や主要原材料価格が高騰	建機の需要は堅調に推移 海上輸送費・ 主要原材料価格高騰の影響が継続
北米	主要得意先各社の生産活動は再開され需要は増加、COVID-19感染拡大前の水準に戻りつつある	建機の稼働時間と新車需要は高い水準で推移 海上輸送費や主要原材料価格が高騰	建機の稼働時間と新車需要は高い水準で推移。海上輸送費・ 主要原材料価格高騰の影響が継続
欧州	COVID-19感染拡大前の影響から回復基調	建機の新車需要、レンタル需要共に建機の需要は高い水準で推移 海上輸送費や主要原材料価格が高騰	ロシア、ウクライナ情勢の深刻化により需要の見通しに不透明感 海上輸送費や主要原材料価格高騰の影響が継続
東南アジア	主要得意先各社の生産活動は再開、建機稼働時間も底打ち感があり通常オペレーションへ回復基調	COVID-19からの回復が鮮明になり建機稼働時間が高い水準で推移	建機の需要は堅調に推移 海上輸送費や 主要原材料価格高騰の影響が継続
中国	経済活動の本格的な再開に伴い、産業補助金拡大による政府主導の投資促進策や消費刺激策の効果に伴い新車需要が大幅に増加	オミクロン株感染拡大を受けた政府の活動制限の強化を主因に低迷	市況の低迷により新車の販売台数は前年度を下回る見通し

- 市場環境は一部不透明だが、生産計画台数及び受注水準も堅調に推移



高い稼働時間に
連動して
新車需要は堅調

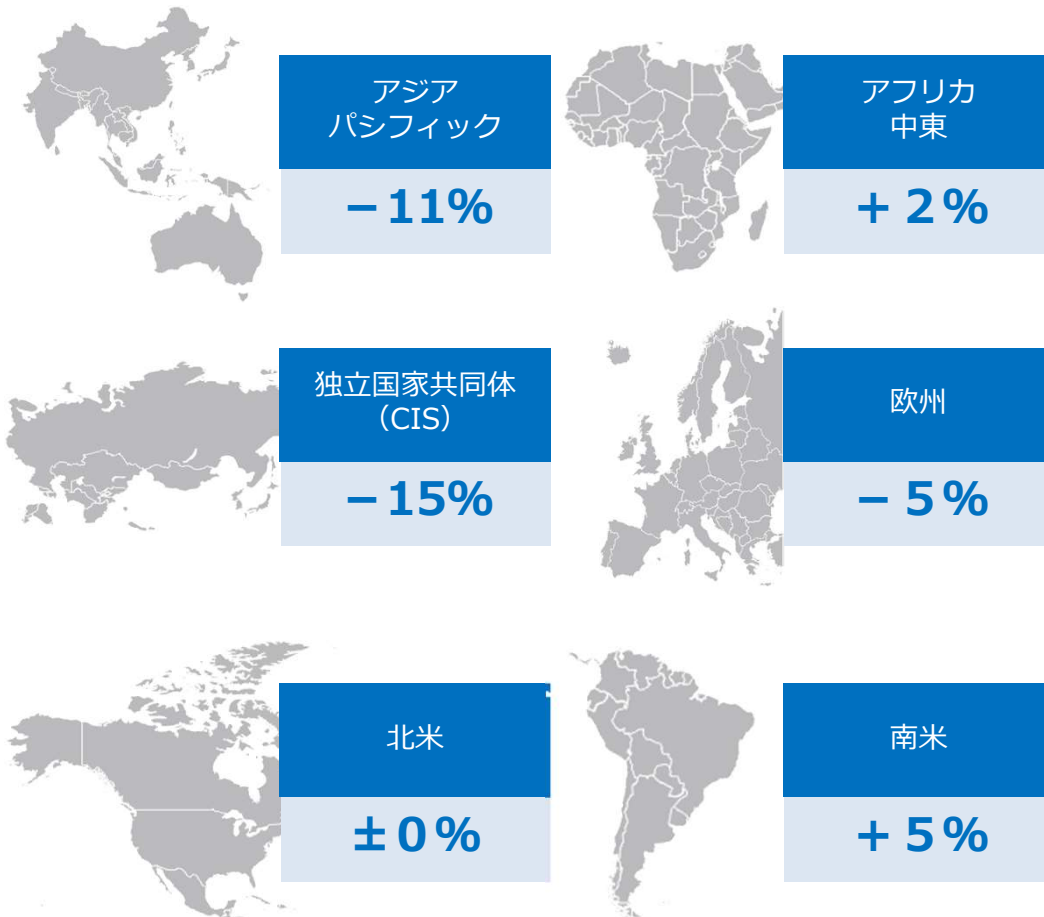
当社の建機用フィルタ売上高と確定受注残高内示受注残高（四半期推移）



補給用パーツの
受注消化が進むが
受注残高は高い水準
を維持

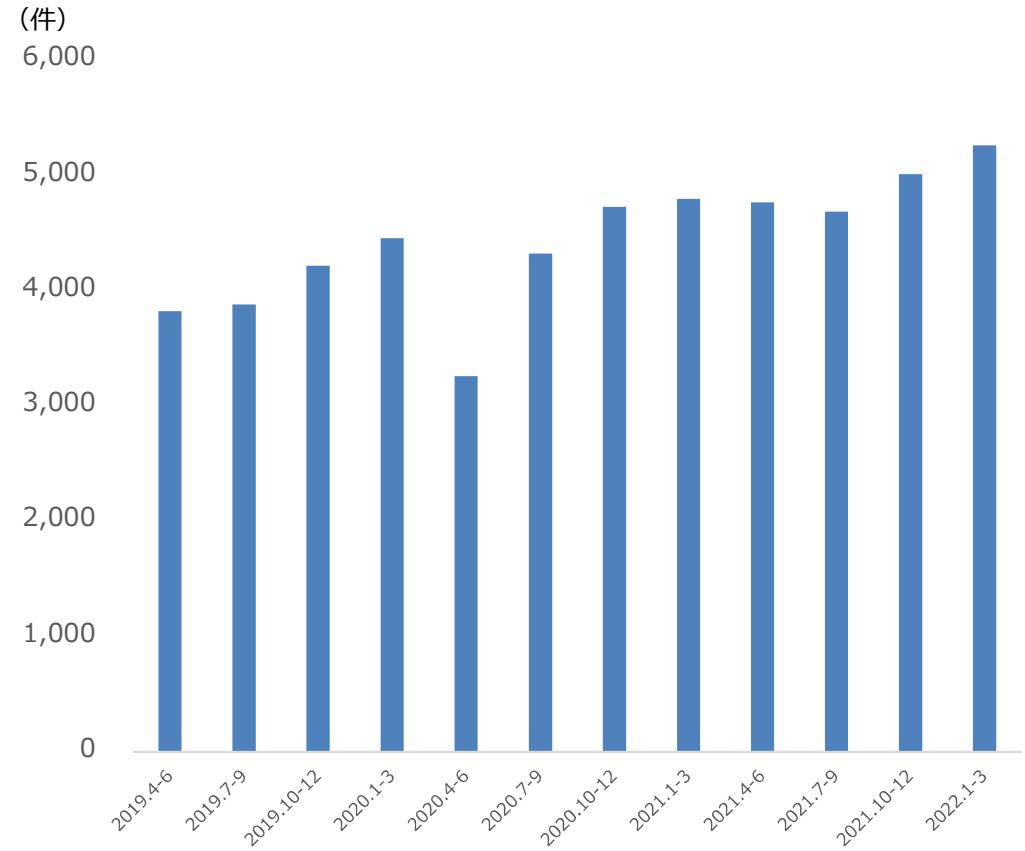
- 前年比マイナス地域もあるが、需要は依然として高い状況
- 旺盛な需要に対して、適切に供給できるか課題
- リモートワーク浸透を背景に、北米の住宅着工件数は高い水準で推移

地域別 建機需要の動向（指数）



デマンド動向指数（21年対22年予想）

北米市場 住宅着工件数の推移



（Bureau of the Censusより当社作成）

- 明確な差別化要素によって、北米主要顧客のシェアは順調に伸長
- サステナビリティに関心が高い顧客にも対応するべく取り組みがスタート

北米大手建機メーカーのシェア情報

■油圧フィルタシェア

	2021	2022	増減
車両建機	39%	46%	7%
鉱山建機	20%	29%	9%
林業機械	30%	44%	14%

■TMフィルタシェア

	2021	2022	増減
車両建機	88%	92%	4%
鉱山建機	54%	58%	4%
林業機械	71%	75%	4%

■その他フィルタシェア

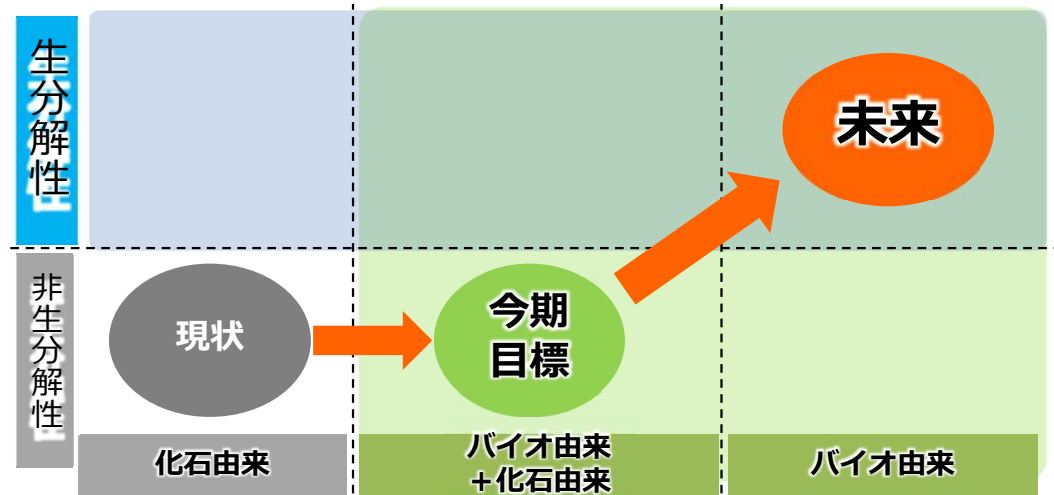
	2021	2022	増減
車両建機	17%	33%	16%
鉱山建機	12%	26%	14%
林業機械	15%	20%	5%

新たなフィルタ素材開発への取り組み

化石由来の材料からの脱却を目指して

サステナビリティへの取り組み
(石油由来素材の脱却)

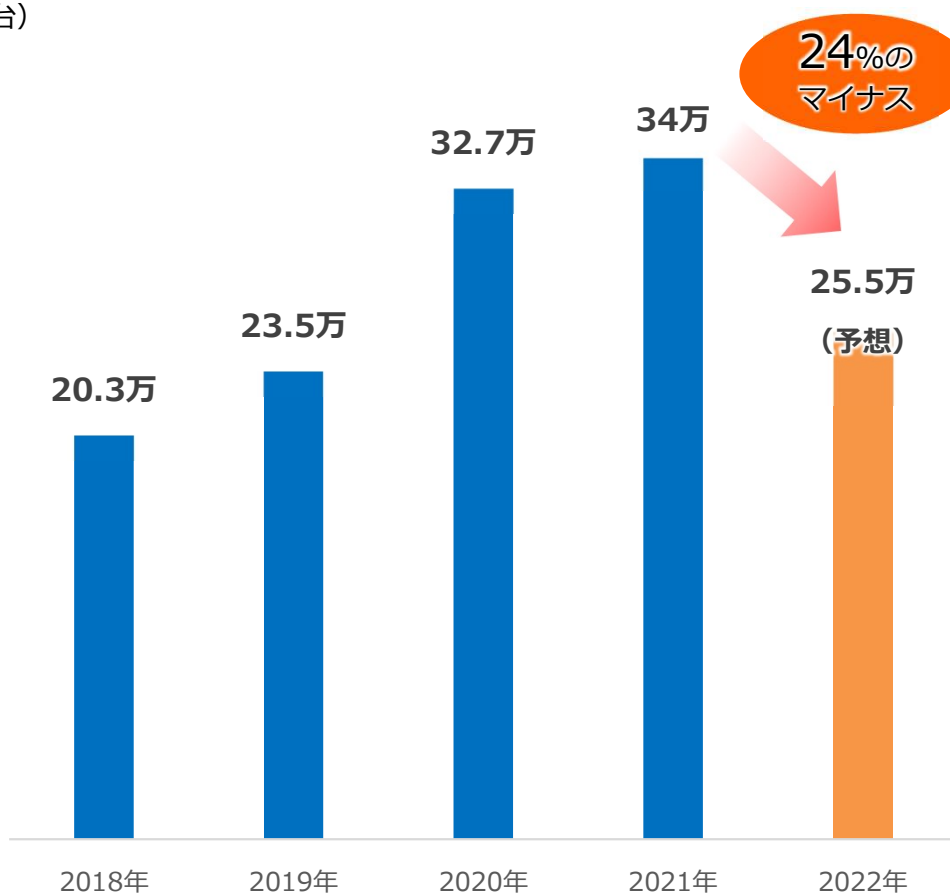
調達の安定化
(原油価格の連動リスク回避)



- コロナ鎮静後の需要回復で年間販売台数は34万台到達するが、足元は販売台数鈍化
- 22年の販売台数は価格競争の熾烈な小型機を中心に減少する見通し

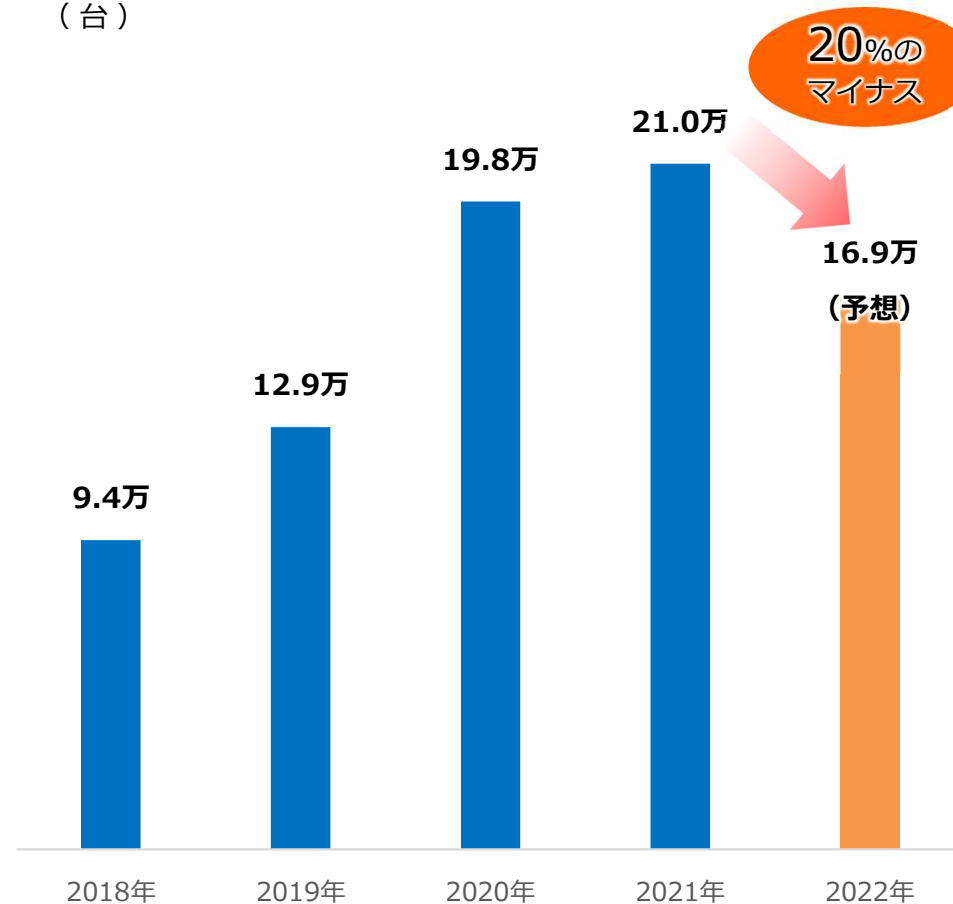
年間販売台数推移

(台)



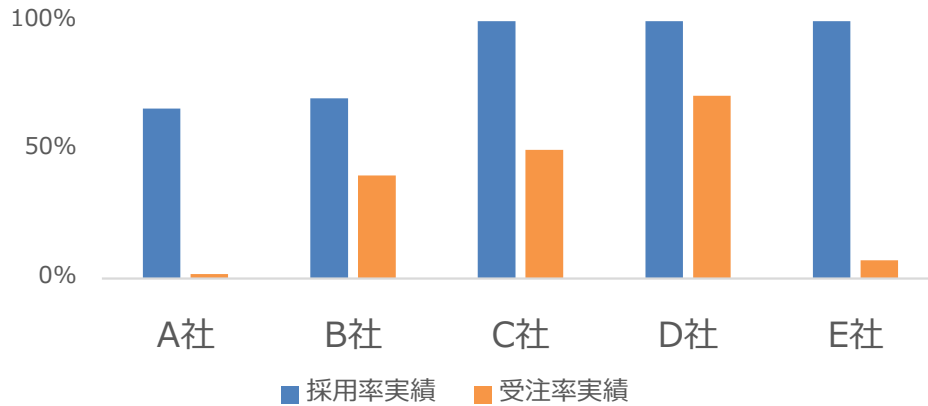
主要中国建機メーカー5社生産台数（計画）

(台)



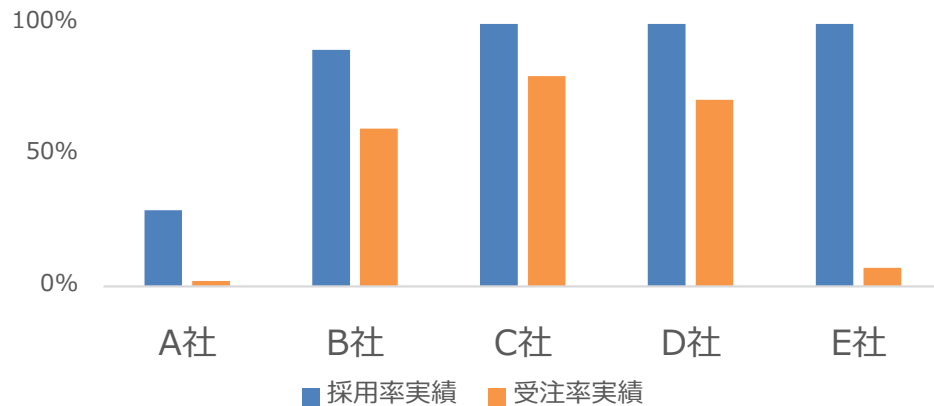
- 排ガス規制に合わせた新モデルでの採用率・受注率も順調に進捗
- 需要の裾野を広げる機種展開の営業活動もスタート

現行機種 (Tier 3) の採用率・受注率



Tier 4機種の採用率・受注率

現行機種 (Tier 3) に比べ
受注率が伸長



油圧ショベルの実績を活用 その他機械にも提案活動を開始

建設現場では様々な建設機械が稼働

採掘現場



都市工事



採掘現場と都市工事を行う車両を
ターゲットに営業活動を実施

車両系建設機械



高所作業車



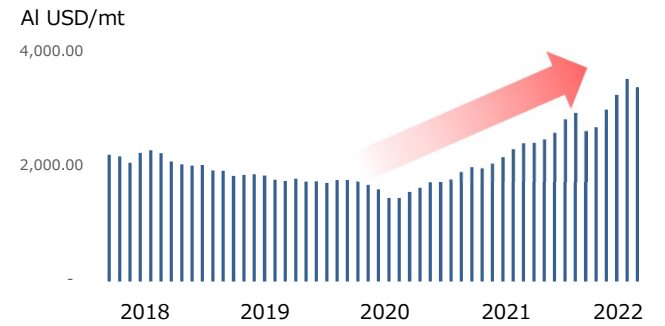
- 材料価格高騰・為替対応・ロジスティクス費用が起因して、営業利益を圧迫
- 稼ぐ力の改善を目指し、可能な限りロス抑制するべく施策を実施

材料価格の高騰

現在の状況：

原材料の6割のアルミや鋼材など資材価格が前年比2倍に高騰

アルミ価格の推移



**主要原材料の調達安定化
& 価格転嫁への検討**

効果的な取引等の検討により
調達価格の安定化を図る

円安の進行

現在の状況：

**急激な円安進行により
営業利益にネガティブな
インパクト**

参考データ

◆ 1円円安で約13百万円営業利益減

決済通貨の見直し

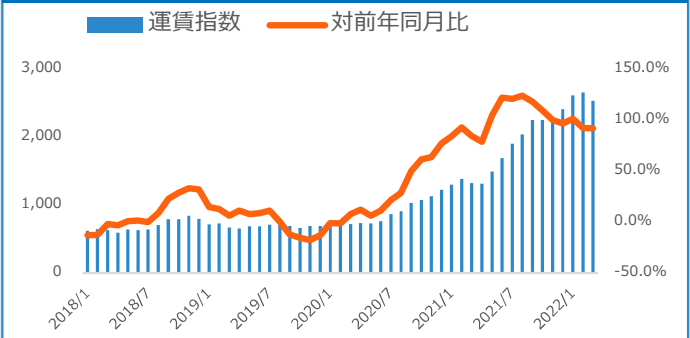
サプライヤーを中心に
決済通貨の見直し・為替マリー強化。
為替感応度改善を図る

ロジスティクス費用の増大

現在の状況：

**海上輸送費は前年比3倍以上
コンテナ単価は前年比約5倍**

北米往航西岸・月別運賃指数の推移



日本海事センター企画研究部作成資料より引用

サプライチェーンの強化

YVC (ベトナム工場) の稼働による
サプライチェーン見直し・
物流コスト低減を実施

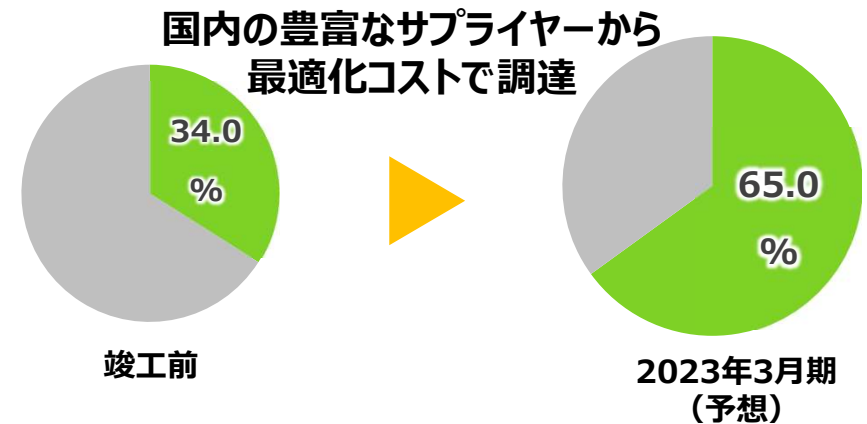
- YVC（ベトナム工場）の稼働によるサプライチェーン見直し・物流コスト低減を実施
- YCF（セブ工場）の生産を代替して、今期生産比率を33%目標に活動

物流のフローチャート

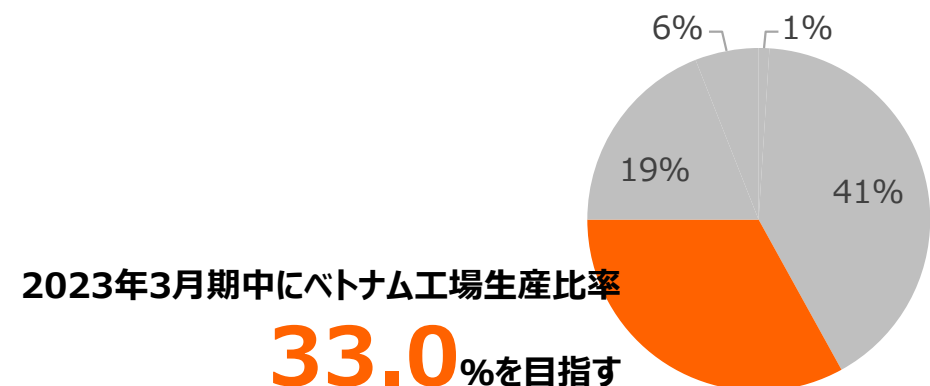


海上輸送距離の短縮によりコスト圧縮を目指す

ベトナムにおける部品調達率



目標とする生産比率のポートフォリオ



“エアフィルタ市場を取り巻く環境”

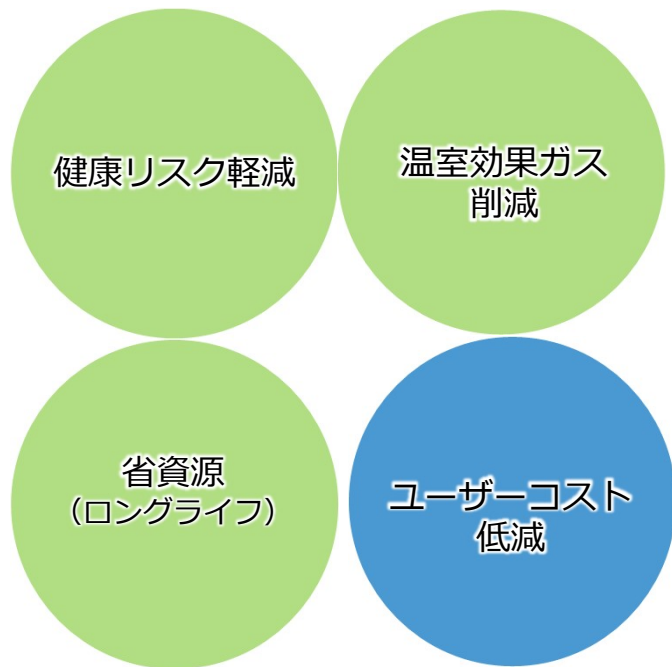
- 主力市場であるビル・建物市場は回復傾向が今期も継続する見込み
- 各種コストの高騰を受けて、メンテナンスコストの抑制ニーズが高まる
- 需要増加が見込まれる半導体・車両市場に注力する一方で、新規顧客開拓も進める

	市場概要	市場環境	
		前期	今期見通し
ビル・建物	オフィス・商業ビル等に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	ビル市場は4Qへ向け落ち着きを取り戻し、リピート物件は手堅く受注。	都市部のリピート案件は安定的に受注も、新規案件は動きが鈍い。
一般工場	工場に設置されている外気取入れユニット・屋内空調等のエアフィルタ	生産状況は回復基調に見えるが設備投資はやや遅れ気味。	大規模改修の動きは鈍いが必要な設備投資には前向きな動き。
半導体工場	ケミカルフィルタの交換市場	引き続き設備投資が好調	引き続き設備投資が好調
環境機器	一般家庭で使われる住宅空調・空気清浄機のエアフィルタ	ウッドショックの余波は続くも、4Qで回復基調になる予測。	住宅関連はウッドショックの影響が続くも持ち直し傾向。
車両	鉄道等の空調用エアフィルタ 建機の粉塵用エアフィルタ	建機は好調をキープする。鉄道は前年より減少も予定通りの推移。	建機用フィルタは堅調。鉄道用は計画通り受注。

- 空気の品質に関心が高まり、総合フィルタメーカーとしての強みを活かせる外部環境
- 差別化された高付加価値技術で、ユーザーコストに競争力がある環境配慮型製品を供給

ユーザが抱える課題

エアフィルタを導入するユーザも
CO₂削減をはじめとする社会課題解決への
効果的な対応が求められている



ヤマシンが提供する 課題へのソリューション

新製品 NanoWHELP®

世界初ナノフィルタ製エアフィルタ



- ・ 圧倒的なフィルタ性能
- ・ 交換インターが長くコスト減
- ・ 価格競争力



優れた環境配慮型製品

他社製品に比べ
圧力損失が低い
(空気がフィルタを通過
する際の抵抗値が低い)

空調機への負荷が低減、
電力消費量を下げ
温室効果ガス削減に貢献

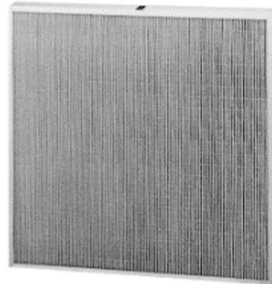
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



- フィルタ性能・環境対応性で高い評価を獲得
- MERV14規格の信頼性と日本メーカーの取得希少性が高い競争力になる

新製品 NanoWHELP®

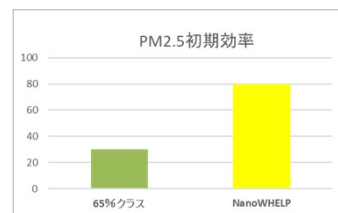
世界初ナノフィルタ製
エアフィルタ



製品特徴

- ヤマシン・ナノフィルタ®の性能を活かし、**持続的な低圧損を実現**
- 日本メーカーの中高性能フィルタで唯一、ビル空調最高レベルの**MERV14を取得済**
- 高性能に加え、**CO2削減にも効果的**

PM2.5の捕集効率96%
初期効率80%以上



想定市場

データセンターやサーバー室・IT化された工場・公共施設・医療施設など。空気質への関心の深まりから一般ビルでも。

導入状況



都内 美術大学

郊外の美術系大学。教室だけでなく外気処理、図書館など全システムに導入。

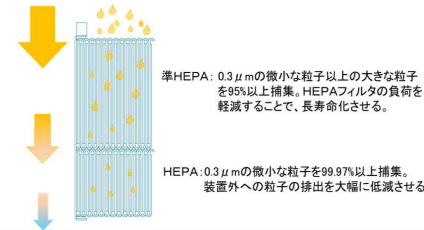


都内 テナントビル
都内 在日大使館

幹線道路沿いの外気環境が悪い中層の都内テナントビルにおいて、連続で導入が決定。

ミストコレクタ搭載フィルタ

【準HEPAとHEPAを組み合わせた2層構造】



工作機械メーカーが開発したミストコレクタへの搭載が決定。他のミストコレクタメーカーへの横展開も進捗中。

“マスク市場を取り巻く環境”

事業を通じた地域・社会貢献

COVID-19感染対策支援として
「ヤマシン・フィルタマスク®」を
横須賀市に寄贈



上地横須賀市長・山崎社長



横須賀市山口部長・北島開発本部長

イベント出席

Zexeed® (ゼクシード) を
オリジナルマスクとして提供している
財団法人全日本スキー連盟様主催
SNOW AWARD2022※に
オフィシャルパートナーとして出席



製品イメージ



授賞式当日の様子



全体撮影

※公益財団法人全日本スキー連盟が主催す2021/2022 シーズンに活躍した選手を表彰する式典

未来

Ⅲ 今後の戦略

2021年11月4日付で公表された東京証券取引所、
「上場会社による新市場区分の選択結果」のとおり

2022年4月4日より 「プライム市場」へ移行



SUSTAINABLE DEVELOPMENT **GOALS**

企業活動を通じたSDGsの達成への貢献

ESG経営の実践

TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

提言への賛同

環境

空気

健康

仕濾過事

ろかじにつかふる

経営理念：「仕濾過事」(ろかじにつかふる)の具現化

当社が取り組む
3つのテーマ



環境



空気



健康

フィルタビジネスを通じた
社会的課題解決

建機用フィルタ

採用が進む
高付加価値フィルタ

新素材・新技術による環境対応で製品需要の拡大を目指す

エアフィルタ

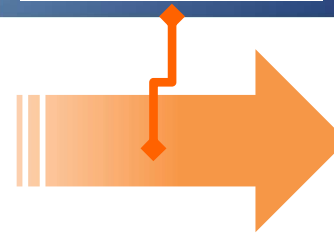
世界初のナノフィルタ製
エアフィルタを生産

エアフィルタ事業の事業拡大による大気汚染の防止に貢献

当社の強み



建機用フィルタを突き詰めた結果開発できた、革新的新技術



イノベーション創出力

ビジネス
モデル

新分野の
発掘力

技術のマイスター

自社
開発/生産

製品への
探求心

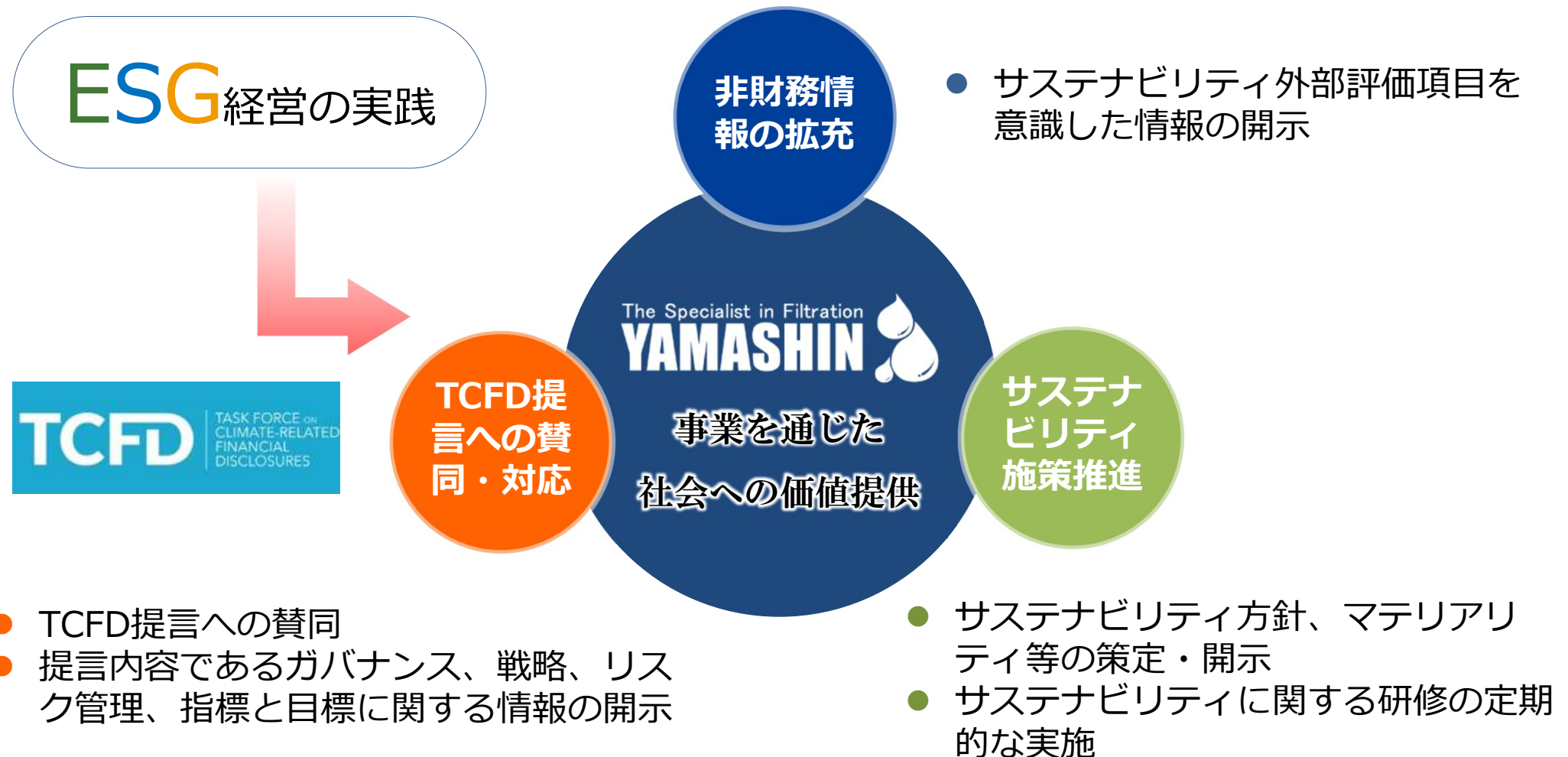
対外的に
もたらす価値

資源の低減

CO₂の削減

健康のための
医療福祉提供

- ESG経営の実践を行うべく、グループ全体でプロジェクト・施策を推進。



●サステナビリティ 施策推進の一環としてYSSが始動。

社会課題に対し、当社が取り組むべきマテリアリティの特定を実施

YSS

名称 : Yamashin Sustainable Solutions

(発足時のテーマ)

社会課題解決と事業機会の創出 :

(検討の方向性)

・環境・気候変動などの社会課題解決に向けて、ヤマシ
ンが資する技術・製品を活かし、CO₂の削減、産業廃棄
物低減等に貢献を目指すための施策の検討。

・将来的に定量的なKPIなどの算出。

【重点的製品】

建機用フィルタ : ナノフィルタ製油圧フィルタ

エアフィルタ : ナノフィルタ製エアフィルタ(NanoWHELP®)

ヘルスクエア : ナノフィルタ製マスク

マテリアリティの特定

環境	気候変動	気候変動対策・脱炭素社会への貢献 ■ 世界全体で求められるカーボンニュートラルの実現に向け、製品と生産の両面で気候変動対策に資するビジネスモデルを実現する
	資源循環	フィルタ技術による環境負荷低減と循環型社会への貢献 ■ 資源循環に着目し、バリューチェーンを通じて経済効率と環境効率の高いビジネスモデルを実現する
空気・健康	大気環境と健康	大気汚染による健康被害の抑止 ~ 安心・安全な暮らしへの貢献 ■ フィルタ技術で、大気汚染やPMによる健康被害から人々を守る ■ フィルタ技術で、室内の空気の質をより高める
	感染症対策	感染症による疾病の予防 ~ 感染症対策に貢献するフィルタの力 ■ フィルタ技術の高度化・高機能化により、感染症による疾病から人々を守る
人・仕事	技術革新	技術の研鑽と応用 ~ 社会が求めるフィルタ技術の追求 ■ 独自の技術を研鑽し、世の中になかったフィルタを生み出す ■ 独自の技術を応用し、新たな価値を創り出す
	働きがい	働きがい、活躍する人材 ~ 「仕濾過事」の実践 ■ お客様、仲間、家族に感謝し感謝される、働きがいのある仕事をする ■ 働き方を刷新し、多様な人材の活躍を促進する
	人権尊重	人権デュー・ディリジェンスの推進 ~ 社会から信頼される企業へ ■ バリューチェーン全体で人権を尊重し、企業としての責任を果たす

- 外部評価等への対応の強化、CDP気候変動質問書には初回答を予定
- サステナビリティレポート2022よりTCFD提言にあわせた開示を開始、今後数年かけて提言に沿った取り組みを推進
- 第三者保証機関によるパフォーマンスデータの正確性・網羅性を確保することで、非財務数値のクオリティ向上を目指す

項目	2022/1Q			2022/2Q			2022/3Q			2022/4Q		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
●ESG外部評価等対応												
・CDP	----->						7/27 回答〆切					
・MSCI・FTSE	-----> 適宜対応											
●サステナビリティレポート2022制作 (日本語版*)												
・TCFD対応(初回開示)	----->											
・第三者保証(Scope 1, 2)				----->								
●他施策												
・YSS委員会運営	-----> 毎月開催											

* 英語版は12月末に発行予定

- 建機用フィルタのヤマシナノフィルタ®への切り替えが2024年3月期より順次開始。社会への価値提供を通じて、企業としての成長を両立。

ヤマシナノフィルタ®



売上単価は既存製品の
約2倍
中長期的な収益の柱に成長

YAMASHIN Nano Filter



Iotセンサ



フィルタ寿命や作動油の汚染度をセンサーで測定。フィルタの価値を一層高める

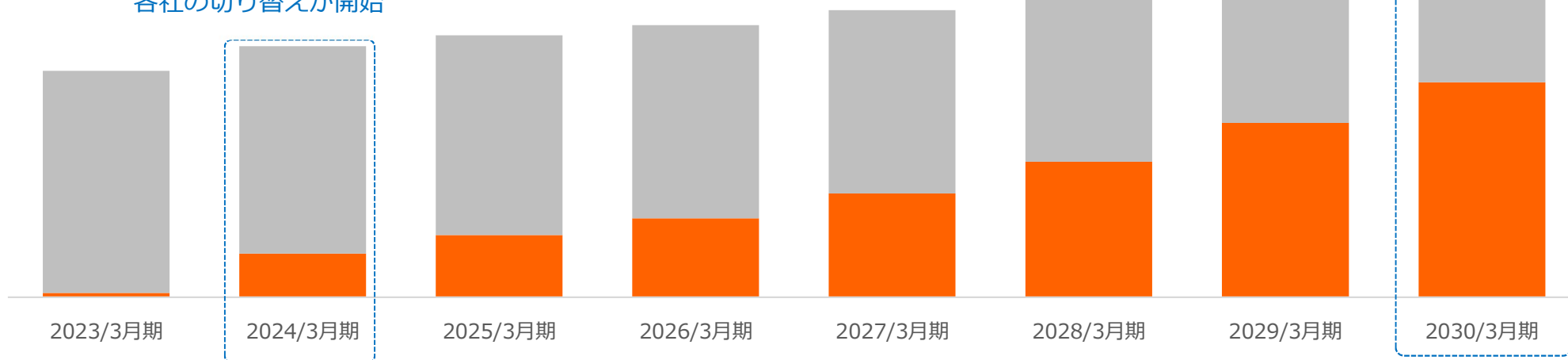


ナノフィルタ製のフィルタの売上予想

■ ロングライフフィルタ売上予想 ■ ガラスる材リターンフィルタ売上予想

ヤマシナノフィルタ®へ
各社の切り替えが開始

ロングライフフィルタは
売上高の約**70%**超まで増加を見込む



バリューチェーンの強化

本来の収益力である

営業利益率20%を

中期的に達成を目指す

強化する施策

1

建機用フィルタビジネス

PAC21、航空運賃の抑制、固定費削減、経費削減による収益性改善

2

エアフィルタビジネス

YCF生産移管、SAP導入（原価管理体制強化）による製造原価低減PAC21、固定費削減による収益性改善、不具合低減

3

ヘルスケアビジネス

マスク生産設備投資による製造ライン自動化、省力化による固定費削減、製造原価低減販売促進費、広告宣伝費等の効率運用

4

サプライチェーン強化

生産拠点再編（新佐賀工場、ベトナム工場（新設）、北米工場）生産能力大幅増強、製造コスト低減

サプライチェーンの強化

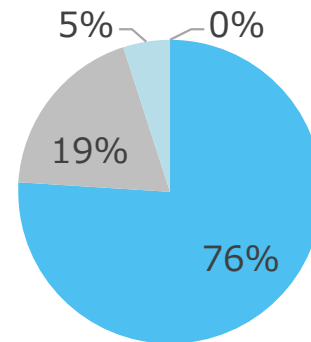
サプライチェーン強化のメインピック、
ベトナム新工場が竣工

一極集中生産体制からマルチプル生産体制への移行によるリスクヘッジ、
材料の現地調達率が向上することにより顧客要望により柔軟な対応が可能に

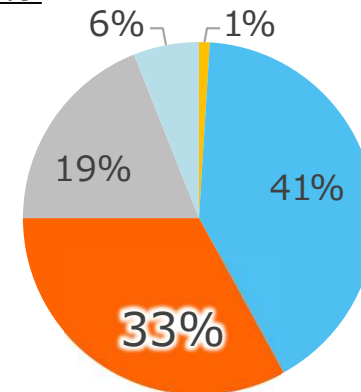


■ YAI ■ フィリピン ■ ベトナム ■ 佐賀 ■ 中国

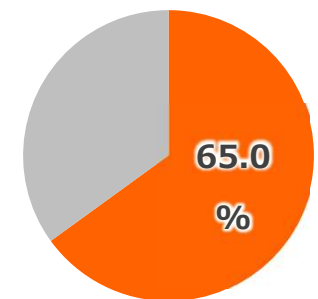
竣工前



目標



ベトナムにおける
部品調達率



2023年3月期

- ヤマシナノフィルタ®の性能を活かし、環境配慮型製品を積極的に展開。
中期的に売上規模50億円を目指す。

技術のマイスター (製品力)

NanoWHELP®
世界初ナノフィルタ製
エアフィルタ



YAMASHIN
Nano Filter™

モノづくりのカ (ケイパビリティ)

社内体制の強化

- SAPの導入
- 人員の最適化
- 販売網の見直し

社会に提供できる価値



今後展開を目指す市場

エアフィルタ性能の最高レベル規格

MERV14・15・16を

日本メーカーの中高性能フィルタで唯一取得



中期的に売上高
50億円を目指す

建機用フィルタ

YCF (生産)

YST (販売・R&D)

YAI (販売・生産)

YTL (販売)

YEB (販売)

The Specialist in Filtration
YAMASHIN
建設機械フィルタの専門メーカーから
「総合フィルタメーカー」

飛躍を加速



YAMASHIN
Nano Filter

YAMASHIN Nano
Filter®産業資材

ヘルスケア

アパレル

消費財

再生可能
I材料-素材

生活用品



YAMASHIN
Nano Filter

エアフィルタ

(販売・生産)











目次

参考資料

① 当社基本情報

当社グループは、フィルタのキーパーツである「ろ材」の主な材料であるガラス繊維や不織布及びフィルタの構成部品に使用される金属加工品や樹脂加工品等の仕入を行い、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタ、エアフィルタを製造しております。また、当社独自に開発した合成高分子系ナノファイバーを用いたオリジナルマスク及び取替用インナーシート

の製造・販売を2020年5月より開始し、2020年7月よりヘルスケア事業を新しい事業セグメントとして加えております。

分野	取扱製品	製品イメージ	売上構成 2023年3月期業績予想
建機用フィルタ	建機の駆動に不可欠である油圧回路の作動油、燃料のディーゼル・オイル、エンジン駆動に必要な潤滑油のろ過に用いられるフィルタ 用途: 様々な種類の建機		
産業用フィルタ	様々な業界に応用されている油圧ユニットの作動油や潤滑油のろ過に用いられるフィルタ 用途: 工作機械、冷凍用圧縮機、農業機械、船舶、鉄道車両、航空機やヘリコプター等の産業機械		
プロセス用フィルタ	顧客製品の製造工程で行われるろ過・分離に必要なフィルタ 用途: 電子部品、精密部品、液晶ディスプレイや食品等の業界		
エアフィルタ	粗塵、中高機能のエアフィルタ 用途: 一般ビル、ホテル、各種工場等の除塵・脱臭等		
ヘルスケア	合成高分子系ナノファイバーの特性である高捕集性能、密閉性、通気性を活かした高機能マスク、取替用インナーシート 用途: 国内外の一般消費者向け		

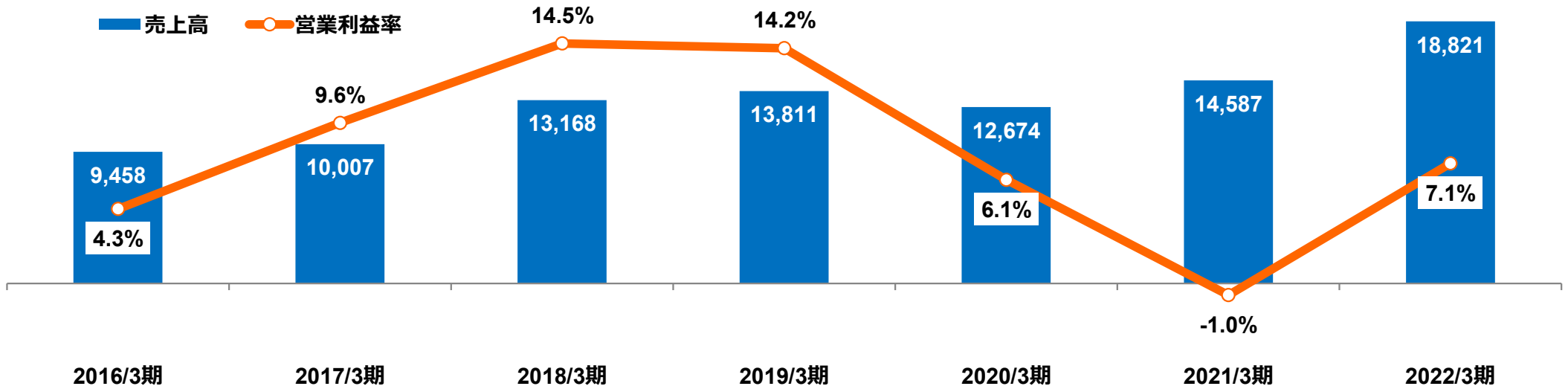
決算

参考資料

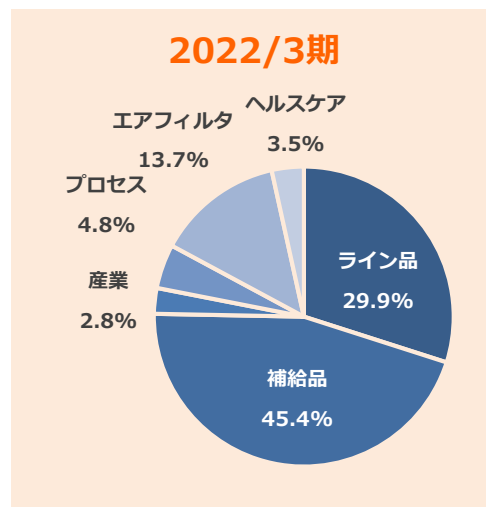
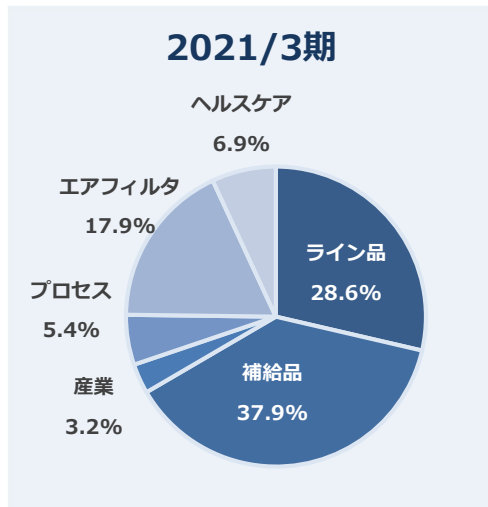
②財務ハイライト

売上高・営業利益率推移

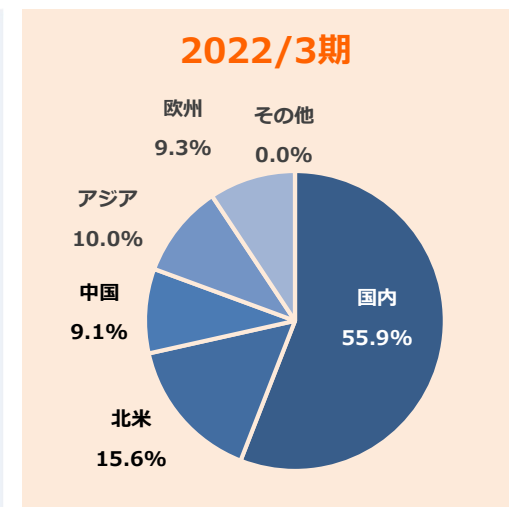
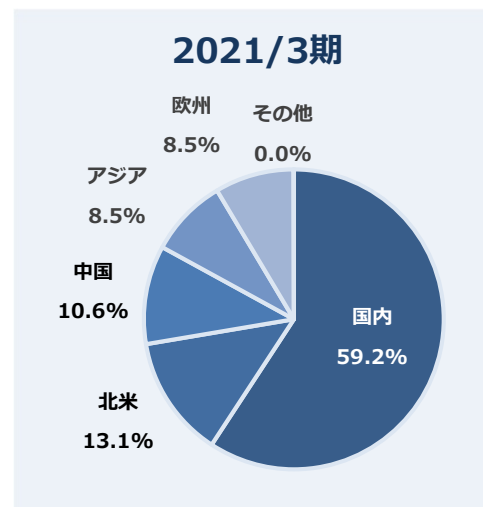
(単位：百万円)



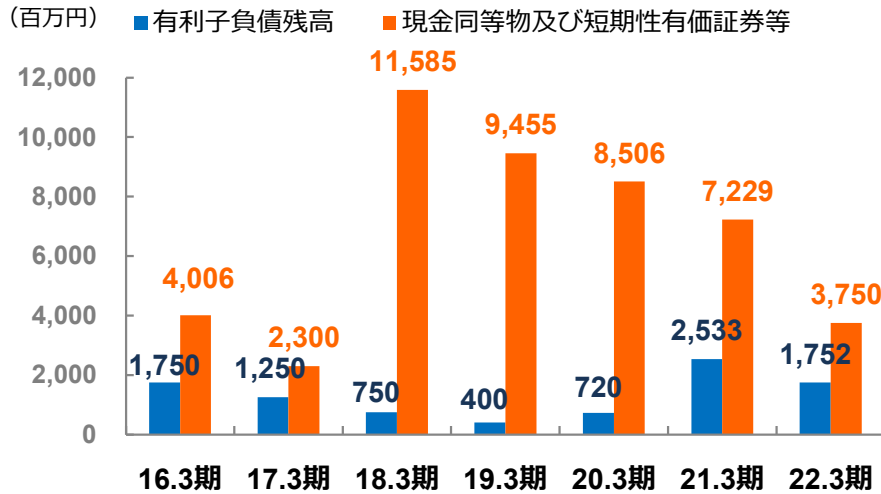
製品別売上高



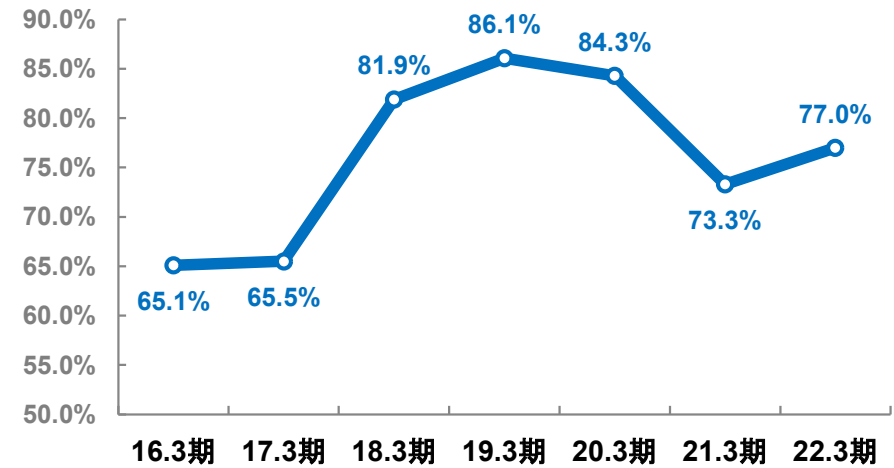
地域別売上高



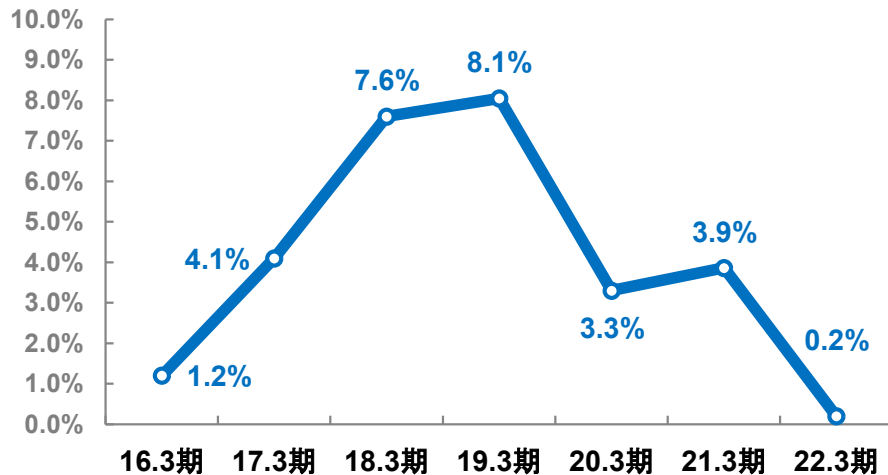
有利子負債・現金同等物及び短期性有価証券等残高



株主資本比率

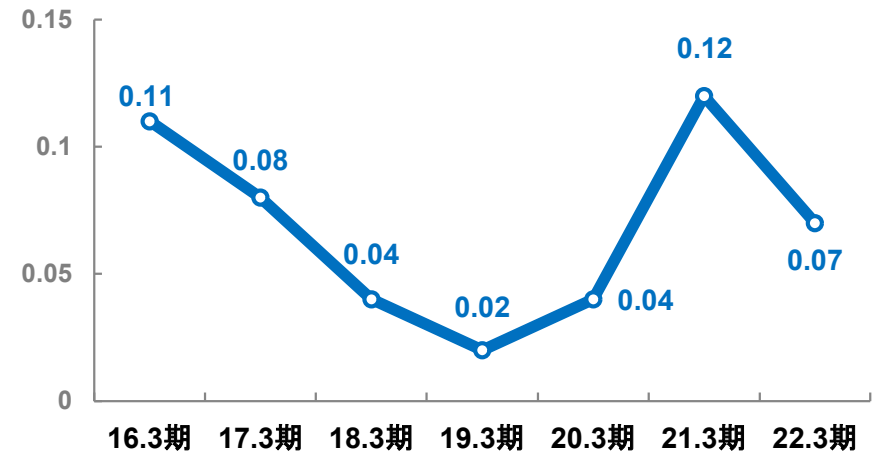


ROE



※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

D/Eレシオ



※18.3期に行った第三者割当増資を過年度より行ったと仮定して計算しております。

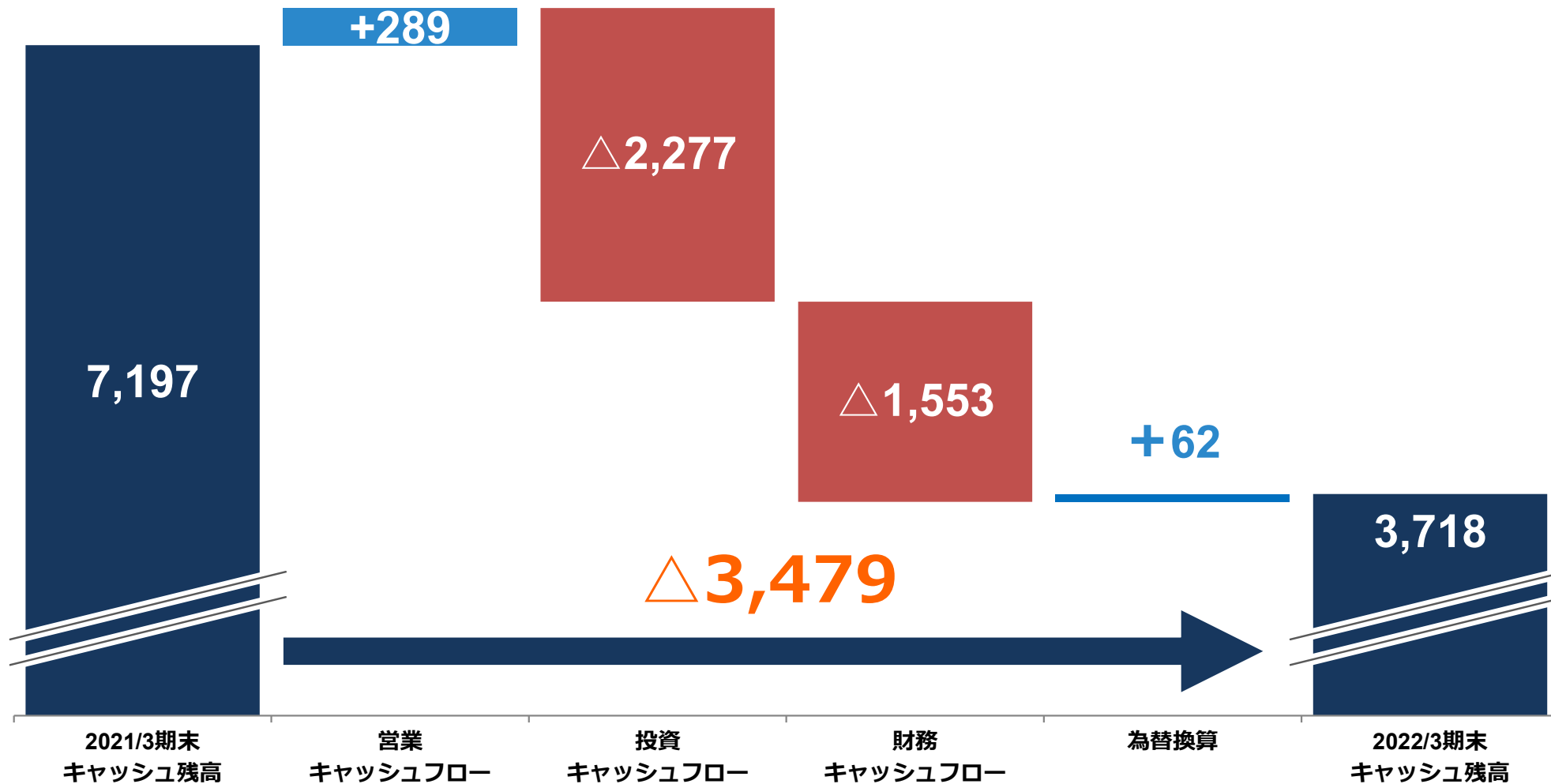
(単位：百万円)

	2021/3期 末	2022/3期 末	増減額	増減率
流動資産	15,323	13,964	△ 1,358	△8.9%
現金及び預金	7,229	3,750	△3,478	△48.1%
受取手形及び売掛金	4,285	4,696	410	9.6%
商品・製品& 原材料・貯蔵品	3,021	4,775	1,753	58.0%
その他	785	742	△43	△5.5%
固定資産	12,868	12,747	△120	△0.9%
有形固定資産	10,813	11,609	795	7.4%
無形固定資産	330	236	△93	△28.3%
投資その他資産	1,724	901	△822	△47.7%
資産合計	28,191	26,712	△1,479	△5.2%

	2021/3期 末	2022/3期 末	増減額	増減率
流動負債	5,539	4,634	△905	△16.3%
支払手形及び買掛金	1,952	2,213	261	13.4%
1年以内返済社債・ 短期借入金	1,003	403	△600	△59.8%
その他	2,583	2016	△566	△21.9%
固定負債	1,969	1,506	△462	△23.5%
社債・長期借入金	1,529	1,126	△403	△26.4%
退職給付に係る負債	225	232	7	3.4%
その他	214	147	△66	△31.1%
純資産合計	20,682	20,571	△111	△0.5%
負債・純資産合計	28,191	26,712	△1,479	△5.2%

*自己資本比率 73.3% 77.0%

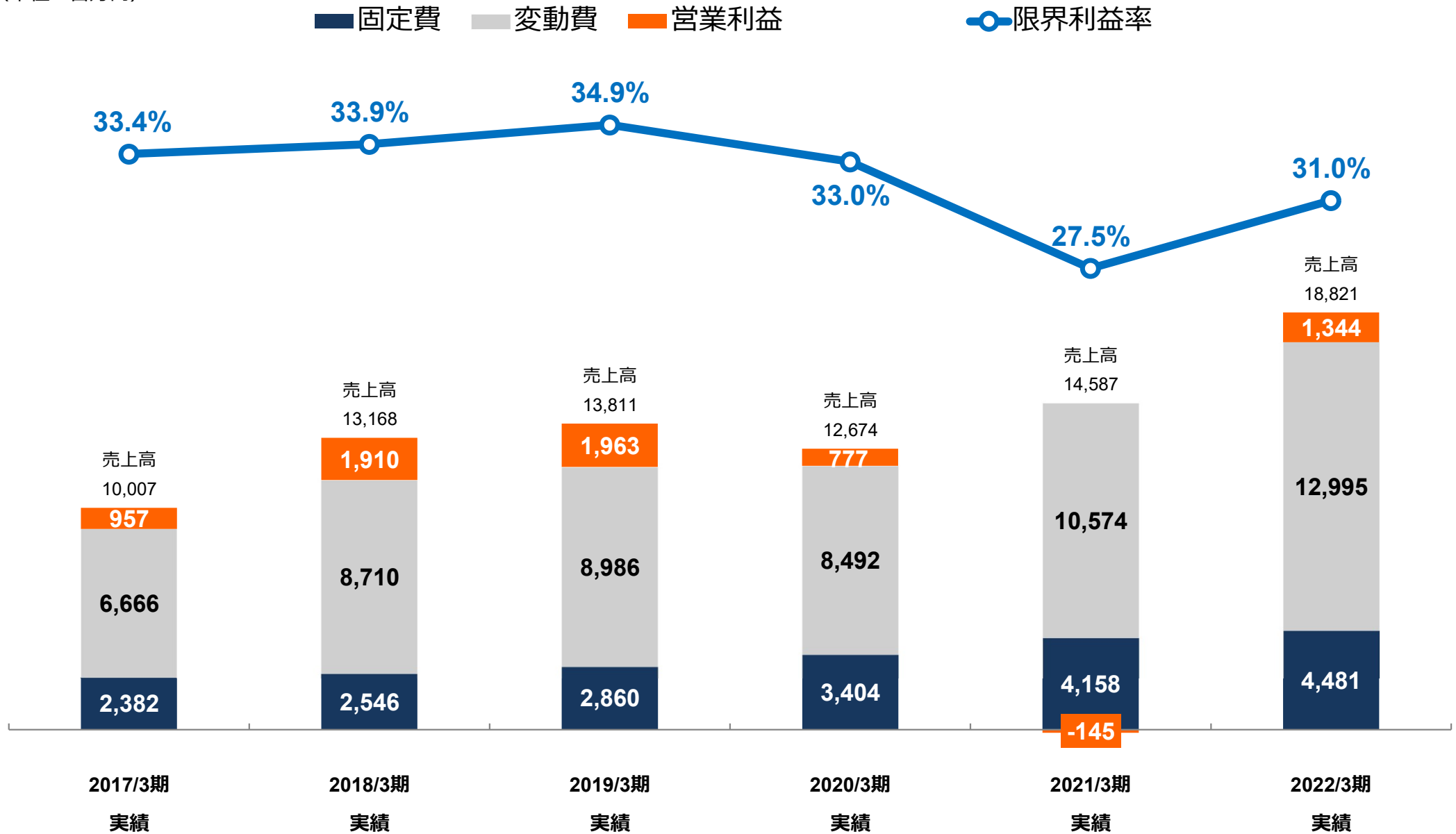
(単位：百万円)



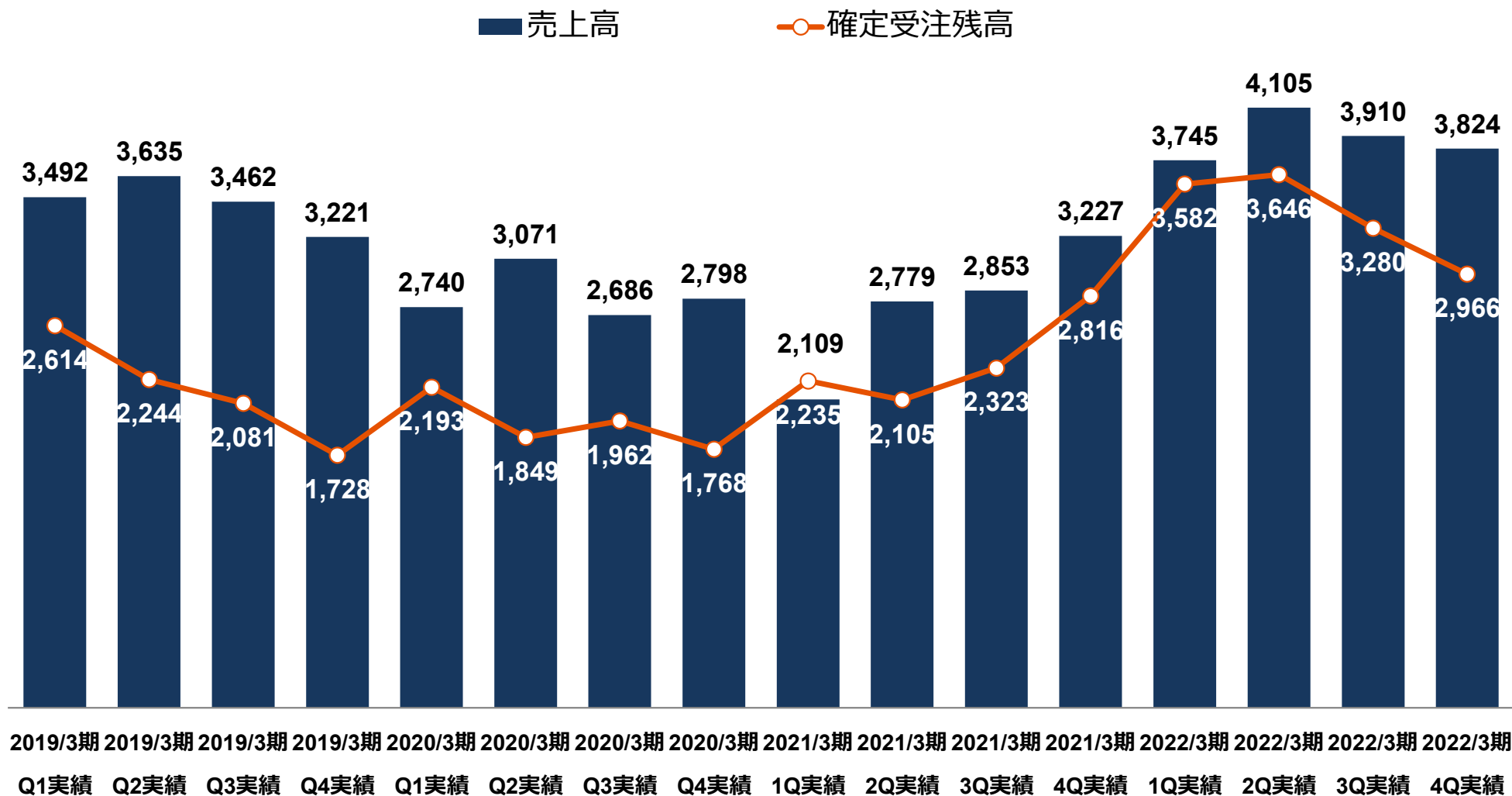
(単位：百万)

Currency	Incoming		Outgoing		Net	期中 平均レート (JPY)	円高ケース (10%)			円安ケース (10%)		
	各通貨	構成比	各通貨	構成比	各通貨		期中平均 レート ▲10% (JPY)	レート 差額	影響額 (YTD)	期中平均 レート +10% (JPY)	レート 差額	影響額 (YTD)
JPY	¥22,100.0	73%	¥21,000.0	66%	¥1,100.0	-	-	-	-	-	-	-
USD	\$61.6	23%	\$74.4	26%	\$-12.8	¥112.4	¥101.15	¥-11.24	¥143.86	¥123.63	¥11.24	¥-143.86
EUR	€ 6.6	3%	€ 5.5	2%	€ 1.1	¥130.6	¥117.51	¥-13.1	¥-14.36	¥143.63	¥13.06	¥14.36
PHP	PP0.0	0%	PP715.9	5%	PP-715.9	¥2.3	¥2.03	¥-0.2	¥161.08	¥2.48	¥0.23	¥-161.08
THB	฿100.00	1%	฿39.00	0%	฿61.00	¥3.4	¥3.10	¥-0.3	¥-20.98	¥3.78	¥0.34	¥20.98
Total	-	100%	-	100%	-	-	-	-	¥269.59	-	-	¥-269.59

(単位：百万円)



(単位：百万円)



2022年3月期 第4四半期 実績 (2022/1-3) - 全社費用を含めたPL



		2021/3期	2022/3期	前年同期比	
		Q4 実績	Q4 実績	増減額 (百万円)	増減率
		金額 (百万円)	金額 (百万円)		
売上高		4,192	4,633	440	10.5%
	建機用フィルタ※	3,227	3,824	596	18.5%
	エアフィルタ	649	683	33	5.1%
	ヘルスケア	315	125	△189	△60.1%
営業利益 (セグメント利益)		0	230	230	—
	建機用フィルタ※	188	259	70	37.6%
	エアフィルタ	△55	△41	14	—
	ヘルスケア	△131	13	144	—
営業利益率		0.0%	5.0%	5.0Pt	
経常利益		△1	238	240	—
経常利益率		△0.0%	5.1%	5.2Pt	
四半期純利益		366	135	△230	△63.0%
四半期純利益率		8.7%	2.9%	△5.8Pt	
為替レート (円) (期中平均値)	USD	106.1	112.4	6.3	6.0%
	EUR	123.7	130.6	6.9	5.6%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

2022年3月期 実績（2021/4-2022/3） - 全社費用を含めたPL

		2021/3期 実績	2022/3期 実績	前期比	
		金額（百万円）	金額（百万円）	増減額（百万円）	増減率
売上高		14,587	18,821	4,234	29.0%
	建機用フィルタ※	10,970	15,592	4,622	42.1%
	エアフィルタ	2,607	2,577	△30	△1.2%
	ヘルスケア	1,009	651	△357	△35.4%
営業利益（セグメント利益）		△145	1,344	1,490	—
	建機用フィルタ※	22	1,797	1,774	—
	エアフィルタ	△18	△123	△105	—
	ヘルスケア	△150	△329	△179	—
営業利益率		△1.0%	7.1%	8.1Pt	
経常利益		△135	1,317	1,452	—
経常利益率		△0.9%	7.0%	7.9Pt	
当期純利益		750	47	△703	△93.7%
当期純利益率		5.1%	0.3%	△4.9Pt	
為替レート（円） （期中平均値）	USD	106.1	112.4	6.3	6.0%
	EUR	123.7	130.6	6.9	5.6%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

		2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 予想	前期比
		金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減額 (百万円)
売上高		12,674	14,587	18,821	17,800	△1,021
	建機用フィルタ※	11,296	10,970	15,592	15,000	△592
	エアフィルタ	1,377	2,607	2,577	2,800	222
	ヘルスケア	-	1,009	651	-	△651
営業利益		777	△145	1,344	700	△644
	建機用フィルタ※	654	22	1,797	660	△1,137
	エアフィルタ	122	△18	△123	40	163
	ヘルスケア	-	△150	△329	-	329
営業利益率		6.1%	△1.0%	7.1%	3.9%	△3.2Pt
経常利益		603	△135	1,317	650	△667
経常利益率		4.8%	△0.9%	7.0%	3.7%	△3.3Pt
当期純利益		608	750	47	458	410
当期純利益率		4.8%	5.1%	0.3%	2.6%	2.3Pt
為替レート (円)	USD	108.8	106.1	112.4	122.0	8.6%
	EUR	120.8	123.7	130.6	137.0	4.9%

※「建機用フィルタ」には、建機用フィルタ、産業用フィルタ、プロセス用フィルタを含みます。

※ヘルスケア事業については、当社の業績に与える影響度合いを考慮し、2023/3期から建機用フィルタ事業の製品群に含めて開示しています。

※2021/3期及び2022/3期の営業利益については、全社費用として別掲していた本社及び子会社の管理部門の一般管理費等の費用について、各セグメントの営業利益に含めています。

The Specialist in Filtration
YAMASHIN 



この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります

この資料に関するお問い合わせは ヤマシンフィルタ株式会社 広報・IR担当まで

TEL 045-680-1680

E-mail ir@yamashin-filter.co.jp